

平成 20 年度研究・教育活動報告

【人間文化学科】

MARK IRWIN

(1) 研究成果

研究論文：

- ・Narrog, Heiko & Irwin, Mark. 「海外における日本語研究」, 日本語の研究 4.3: 114-119.
- ・Irwin, Mark. Rendaku Immunity and Prosodic Size. 「Current Issues in Unity and Diversity of Languages」, The Linguistic Society of Korea 編, 806-823. ソウル: Dongnam Publishing.
- ・本多薫・森田光宏・Irwin, Mark・富田かおる・Enslin, Todd・Miller, Jerry. 「インターネットを利用した英語学習支援システムの構築：動画配信による podcasting の試み」, 山形大学人文学部研究年報 6: 51-70.
- ・Irwin, Mark. 「Mora Splitting in Loanword Compounds」, 山形大学人文学部研究年報 6: 71-85.

研究発表：

- ・Irwin, Mark. 「Rendaku Immunity and Prosodic Size」, 18th International Congress of Linguists, 高麗大学, ソウル.
- ・森田光宏・本多薫・富田かおる・Irwin, Mark・Enslin, Todd. 「動画配信による英語学習支援」, ICT 合同研究会, 早稲田大学.

(2) 教育, 地域連携等の活動

専門教育担当授業：英語コミュニケーション (中・上), 言語学演習

教養教育担当授業：英語 (C)

出張講義：

「英語の発音と外来語の功罪」, 福島市立西高等学校, 「一日大学」講座

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

特にありません。

相沢 直樹

(1) 研究成果

- ・「死と再生のバルカローラ —— 黒澤明の映画『生きる』における『ゴンドラの唄』をめぐる断章 ——」山形大学大学院社会文化システム研究科紀要第5号, 平成20年8月, 15-36頁

(2) 地域・教育連携等の活動

教養教育：ロシア語

専門教育：ロシア文化論, ロシア文化購読, 人間文化基礎演習など

映画館で上映されたロシア映画の解説など

浅野 明

(1) 研究成果

- ・翻訳：T. B. チュマコーヴァ「外国人のみたロシアにおけるツァーリの権力（16-17 世紀）」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第 10 号（2009 年 3 月）

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・担当授業：西洋中世の社会（歴史学），人間文化入門総合講義，文化環境学（一），西洋史概論（一），西洋史講義（一），西洋史演習（一），西洋史講読（一）
- ・出張講義：岩手県立高田高等学校（岩手県陸前高田市，10 月 4 日）

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究成果の翻訳は，近年の学界において重視されている君主権力の理念史的研究に属するもので，2004 年にモスクワ・クレムリン博物館主催で開催されたシンポジウムにおける報告である。

教育活動については，従来から担当している授業に加えて，高校生にも開放されている人文学に関する入門講義および学科共通科目である文化環境学を，いずれも複数の教員と共同で担当した。前者では，「伝説が生まれるとき」と題して，歴史の事実が人々にいかに記憶されていくかという問題を考えた。また後者では，昨年を引き続き，世界の食文化と歴史のかかわりについて検討した。

芦立 一郎

(1) 研究成果

- 「詞の言葉」 人文学部大学紀要 平成 21 年 3 月

(2) 教育，地域連携等の活動

アジア文化論概論 アジア文化論演習 アジア文化基礎 中国文学講義 中国語
NHK 文化センター講師

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

唐代詩歌，とくに男女愛情表現に係る語彙の様相と構造について調査研究中。

阿部 宏慈

(2) 教育，地域連携等の活動

山形大学公開講座「藤沢周平の山形」講師，山形国際ドキュメンタリー映画祭理事，フォーラム映画講座（「ヨーロッパ映画の愉しみ」），出張講義（新庄北高校）

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 20 年は，ニヨン（スイス）国際ドキュメンタリー映画祭においてドキュメンタリー映画における調査研究をはじめとして「アクチュアリティ」の問題の研究を継続した。3 月の黒澤明シンポジウムに引き続き，9 月，東北学院大学において「ドキュメンタリー映画の現在」のタイトルで講演をおこなった。

教育研究活動においては，特に全学の教養教育の改訂作業に関わり，「東北・北海道地区一般教育研究会」に参加。教育方法改善にかかわる学部議会の議論も人間文化，法経政策の両学科長をはじめ，委員の先生方とともに継続した。担当した授業科目は，教養教育外国語科目フランス語の他，「表象文化演習」，「フランス文化論」などである。

阿部 成樹

(1) 研究成果

- 「追悼の政治 —— ジャック＝ルイ・ダヴィッド《マラーの死》について」『表象』表象文化論学会

編, 第2号, 2008年3月, 190?208頁 (単著)

石鍋真澄他編著 『ルネサンス美術館』 小学館, 2008年 (分担執筆)

「ファッションとクローバー — 「超有機体論」をめぐって—」日仏美術学会ワークショップ「1920-30年代の美術史家と美術批評家??フランス美術史編纂の歴史研究試論」2008年12月20日, 於日仏会館 (学会発表)

(2) 教育, 地域貢献等の活動

・教育

担当授業: 美学・芸術学特殊講義, 比較文化・表象文化基礎, 文化環境学 (一), 芸術文化演習 (一) (二), 表象文化演習, 芸術文化実習, 人間文化入門総合講義, ヌードの歴史 (芸術), フランス絵画史 II (芸術)

卒業論文指導: 芸術文化論2名 (ゴッホ, ドニ), 比較文化・表象文化論2名 (フランク・ロイド・ライト, HIROMIX)

・社会貢献他

美術史学会篇 『美術史』 第167冊査読委員

(3) 平成20年度の研究, 教育活動に関するコメント(200字以内)

卒論指導に難しい面があったが, 学生たちは粘り強くがんばってくれたと思う。

新宮 学

(1) 研究成果

・論文

「近世中国における皇城の成立」王維坤・宇野隆夫編 『古代東アジア交流の総合的研究』 国際日本文化センター共同研究報告書 139-178頁, 2008年12月

「明代中都皇城考」 『集刊東洋学』 100号 206-228頁 2008年12月

・海外・国内調査

2009年3月18日~3月24日 中国農耕と牧畜境界地帯の都市と環境調査 (ウルムチ・カシュガル等)

2009年3月25日~3月29日 清代都城調査 (北京・瀋陽等)

2008年11月20日~24日 日本古代都城遺跡踏査 (長岡京・平安京)

(2) 教育, 地域連携等の活動

・当該年度における授業 (担当授業名)

[学部] 東洋史概論 (一), 東洋史講義 (一), 東洋史演習 (一), 東洋史講読 (一), 北京の歴史 (歴史学), マルコ・ポーロの『東方見聞録』を読む (教養セミナー), 卒業論文指導, 外国史概説 (地域教育文化学部兼任)

[大学院] 東アジア近世史特論, 東アジア近世史特別演習

・地域貢献・学会活動

山形県立山形南高等学校での「出張講義」 9月16日

仙台市内の高校訪問 (5校) 10月28日

・公開講座

「首都北京の中軸線とオリンピック会場」 人文学部公開講座「中国を深く知るための5つの方法」 6月16日

(3) コメント

研究活動では、最終年度を迎えた基盤研究 (S) 「歴史学的視角から分析する東アジアの都市問題と環境問題」(代表 妹尾達彦教授) では、国際会議を東京で開催し、分担研究者として 5 年間の研究成果を報告した。基盤研究 (B) 「東アジア諸国における都城および都城制の比較を通じてみた日本古代宮都の通時的研究」(代表 橋本義則教授) には、引き続き連携研究者として参加した。

教育活動では、中国中世史と西アジア史をテーマとする学生の卒業論文を指導した。7 月には、教員有志とともに歴史学専修学生を対象にした課外の研修旅行を実施し、「齋理屋敷」常設展示、及び東北歴史博物館「古代北方世界に生きた人々」展や「ナスカ地上絵展」(仙台市自然史博物館) を見学した。学生 28 名参加。

池田 光則

(2) 教育、地域貢献等の活動

(i) 担当授業

- ・学部専門教育科目：言語学概論 (一)、言語学概論 (二)、言語学演習、ラテン語初級
- ・教養教育科目：言語学概論 (言語学)、言語学とその周辺領域 (言語学)、英語
- ・大学院：言語学特論、言語学特別演習

(ii) 卒業論文指導テーマ

- ・マンガのオノマトペにおける音象徴について
- ・現代日本語における短縮語形成について
- ・ドラマ・演劇のシナリオにおける女性語使用の変化
- ・現代における敬語の使用について

(iii) 修士論文指導テーマ

- ・日本語、ロシア語における慣用句の対照研究—身体語彙を用いた慣用句を中心に—

磯野 暢祐

(2) 教育、地域貢献等の活動

- ・教養教育として、フランス語 (前期) を週 4 コマ、フランス語 (後期) を週 4 コマ、計 8 コマ担当。
- ・専門教育として、言語学特殊講義 (前期・音声学)、言語学特殊講義 (後期・ロマンス語学)、フランス語学演習 (中級)、フランス文化購読、欧米文化基礎、人間文化基礎演習を担当。
- ・大学院では、音韻論特論を担当。

板垣 哲夫

1) 研究成果

「九鬼周造における内在と超越」(『山形大学紀要 (人文科学)』第 16 巻第 4 号, 2009 年 2 月)

2) 教育、地域連携等の活動

文化環境学 (一)、日本史概論 (二)、日本史講義 (二)、日本史演習 (二)、日本史講読 (二)、福沢諭吉再考 (歴史学)、江戸時代とは何か (教養セミナー)

伊藤 豊

(1) 研究成果

[論文]

- ・「フェノロサのガードナー夫人宛書簡——マリオン・クロフォードへの批判をいかに解釈すべきか」、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第 5 号, 平成 20 年
- ・「F・マリオン・クロフォードの仏教観と世紀末アメリカ文化」、『比較文化研究』No. 83, 平成 20

年

[学会発表]

- ・「F・マリオン・クロフォードの東洋的神秘主義——19世紀末アメリカ文化をめぐる一考察——」, 日本比較文化学会第30回全国大会 (京都大学, 平成20年6月14日)
- ・「フェノロサのマリオン・クロフォード批判——19世紀末アメリカ仏教をめぐる一考察——」, 日本比較文学会第70回全国大会 (大妻女子大学, 平成20年6月21日)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[教育活動]

- ・教養教育: 英語 C, 英語 R
- ・Japan Studies Program: An Outline History of Modern Japan
- ・人文学部: 文化環境学 (), 比較文化概論, 文化交流史講義, 比較文化演習, 文化交流史演習
- ・大学院: 比較文化論特論

[地域連携等]

- ・出張講義「多文化主義とは何か」(山形県立寒河江高等学校, 平成20年9月17日)

(3) 平成19年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・へ(° へ)

上田 弘毅

(1) 研究成果

朱子学者張楊園の陽明学批判・陽明学第21号・二松学舎大学東アジア学術総合研究所刊

小熊 正久

(1) 研究成果

- * 翻訳 (共訳): ハンス・ブルーメンベルク著『コペルニクスの宇宙の生成 II』(法政大学出版局, 2008年7月)
- * 研究発表: 「メルロ=ポンティとパレーラ」(「現象学を語る会」, 2008年7月, 於東北大学文学部)。同じ主題で, 検討し直したものを, 次の論文とした。
- * 論文: 「メルロ=ポンティとパレーラ 運動的志向性と身体概念を中心に」(山形大学紀要(人文科学)第16巻第4号 pp.1-28)

(2) 教育, 地域連携等の活動

* 教育

- ・担当授業科目: 哲学概論(前)[アリストテレス, デカルト, 現象学における精神と世界], 哲学講義(後)[コミュニケーションとメディア(主に前者を検討)], 哲学演習二(前・後), 哲学原典講読(前), ギリシア語(前・後), 教養教育(前・後), ヨーロッパ思想文化論特論。
- ・指導した卒論の主題: 「カントの感性論について」。

* 地域連携: 研究室訪問として, 高校生1名の研究指導(キルケゴールについて)をおこなった。

(3) 平成19年度の研究・教育活動に関するコメント

- * 翻訳について: 同書の全体像を捉えるのに苦労したが, 著者ブルーメンベルクの叙述方針をまとめて, 「訳者あとがき」に記すことができた。現在, 最終巻(第3巻)の作業中。
- * 論文について: 身体をめぐるメルロ=ポンティの発想は現代の認知科学的研究におけるいくつかの傾向と合致するところがあると思われる。上記論文の主題はその一つを追究したものである。

奥村 淳

(1) 研究成果

(論文)「山形大学図書館に存する青島瀾獲書籍－あらたに確認された 83 冊について：「青島戦ドイツ兵俘虜収容所」研究，第 6 号（鳴門市ドイツ館）2008 年 9 月（これについては山形大学附属図書館中央図書館ホームページ「<資料紹介> 戻って来た「青島守備軍瀾獲図書」18 冊，参照）

（第 5 回日本独文学会賞論文の推薦理由）「吉田孝夫：『智・女・鏡 - グライフェンベルクにおける第四の神性について』」：「ドイツ文学」別冊 2008 年秋号）2008 年 9 月

菊地 仁

(1) 研究成果

[論文]

・「物語文学とお伽草子・しのびね型 物語をめぐる」(『お伽草子百花繚乱』，pp.166-180，2008 年 11 月)

[口頭発表]

・「平安和歌より江戸絵画へ 歌意絵の景物描写をめぐる」(和歌文学会六月例会，2008 年 6 月 12 日・日本女子大学)

(2) 教育，地域連携等の活動

[平成 20 年度の担当授業]

・前期

教養セミナー（教養教育）・アジア文化基礎・日本文学演習・日本古典文学講義
日本古代中世文化論特論・アジア文化特別研究（大学院）

・後期

文化論（教養教育）・日本文化講読・日本文化概論
日本古代中世文化論特別演習（大学院）

清塚 邦彦

(1) 研究成果

(a) 研究業績

論文

・「虚構論」，飯田隆ほか編『岩波講座哲学 03 言語 / 思考の哲学』に所収（2009 年 2 月），171-188 頁。

・「ウォルトンの写真論をめぐる ii 演じることと見ること」，日本記号学会編『新記号論叢書 5 写真，その語りにくさを超えて』（2008 年 5 月），61-67 頁。

(b) その他の研究活動

・日本科学哲学会 『科学哲学』編集委員

・科学基礎論学会 『科学基礎論研究』査読委員

(2) 教育，地域連携等の活動

(a) 担当授業

（教養教育）「哲学ってどんなこと？（哲学）」（前・後期）

（専門教育）「哲学基礎」（後期），「人間情報科学基礎」（後期），

「共生人間学（二）」（後期），「論理学概論」（前期），「情報記号論」（後期），

「現代応用倫理」（後期），「情報記号論演習」（前・後期）

（大学院）「論理学特論」（前期），「論理学特別演習」（後期）

(非常勤)「倫理学」(東北芸術工科大学, 前期), 「哲学思想各論」(東北大学文学部, 前・後期), 「哲学特論」(東北大学文学研究科, 前・後期)

(b) 卒論指導

人間情報科学専修 4 名, 哲学専修 1 名。

(c) 出張講義

2009 年 2 月 21 日, 楯岡高校, 「ロボットの心: 機械は考えるか?」。

(d) 講演会

2009 年 2 月 7 日, 早稲田大学現代文学会 2008 年度講演会 「虚構の美がせまってくる: 芸術の analysis, 創作の dynamics」(小説家の諏訪哲史氏とともに)

齊藤 哲也

(1) 研究成果

[研究論文]

齊藤哲也「逸脱するイマージュ シュルレアリスムと絵画の(離)接点」, 『水声通信』第 23 号, 2008 年, 57-68 ページ。

齊藤哲也「絵画を分壊する マッタとブローネルのあいだで: 《インターヴィジョン》」, 『水声通信』第 25 号, 2008 年, 128-137 ページ。

齊藤哲也「シュルレアリスムの映画的条件 あるいは映画ならざるもの」, 『層』第二号, 2008 年, 37-58 ページ。

齊藤哲也「窓/壁/輪郭 シュルレアリスム, あるいは「時宜をえない」もの」, 『水声通信』第 27 号, 2008 年, 23-35 ページ。

塚本昌則, 齊藤哲也, 鈴木雅雄「シュルレアリスムの視覚体験とは何か」, 『水声通信』第 27 号, 2008 年, 46-53 ページ。

[学術雑誌等又は商業誌における解説, 総説]

齊藤哲也「ファビオ・デ・サンクティス」(美術評) 『水声通信』第 23 号, 水声社, 2008 年, 142-143 ページ。

齊藤哲也「イヴ・ラロワ」(美術評) 『水声通信』第 23 号, 水声社, 2008 年, 150-151 ページ。

[口頭発表]

齊藤哲也「壁・窓・輪郭——シュルレアリスム絵画の空間」, シンポジウム「シュルレアリスムの視覚体験とは何か」早稲田大学, 2008 年 10 月 24 日。

(2) 教育, 地域連携等の活動

模擬講義 (福島県立喜多方高等学校, 10 月 10 日)

体験学習 (山形県立新庄北高等学校, 山形大学研究室訪問プロジェクト)

坂井 正人

(1) 研究成果

[口頭発表]

・ El Centro Ceremonial Formativo del 'Templete de Limoncarro'y las Sociedades en la Costa Norte del Peru (Masato Sakai y Juan Martinez), VI SIMPOSIO INTERNACIONAL DE ARQUEOLOGIA PUCP, Pontificia Universidad Catolica del Peru, 2008 年 9 月 6 日。

・ La Transformacion de la Representacion Zoomorfica y Sociedades en el Periodo Formativo (Masato Sakai), CENTRO Y PROCESOS SOCIALES: CONCEPTO VS. CONTEXTO EN LOS ESTUDIOS SOBRE LA CIVILIZACION ANDINA PARA LOS PERIODOS ARCAICO Y FORMATIVO. 国立民族学博物館, 2008 年 11 月 29 日。

・ 「パコパンバ遺跡の景観構造と変容」(坂井正人) 『古代アメリカ学会研究大会』第 13 回, 早稲田

大学戸山キャンパス，2008 年 12 月 6 日。

[著書・論文・エッセイなど]

- ・Organizacion del Paisaje en el Centro Ceremonial Formativo de Pacopampa (Masato Sakai, Juan Pablo Villanueva, Yuji Seki, Walter Tosso, Araceli Espinoza y Shinpei Shibata). *Arqueologia y Sociedad* 18:57-68.
- ・『ナスカ地上絵の新展開：人工衛星画像と現地調査による』(坂井正人編) 山形大学出版会。
- ・「ナスカの世界観：超自然的存在」『河北新報』(7月30日号)。
- ・「ナスカの世界観：動物の役割」『河北新報』(7月31日号)。
- ・「ナスカの世界観：周辺の遺跡」『河北新報』(8月1日号)。
- ・「今も地上絵は描かれている」『週刊世界百不思議』No.3, pp.4-5, 講談社。

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当授業]

「文化人類学入門 (文化論)」「南米の考古学 (教養セミナー)」「比較地域生態概論」「文化人類学・宗教史講義 (二)」「文化人類学・宗教史演習 (二)」「文化人類学・宗教史演習 (三)」「文化人類学・宗教史実習 (二)」「文化人類学・宗教史基礎」「文化環境学 (一)」

[卒業論文]

「仙台市栗生の鬼子母神祭」「国際ボランティアセンター山形による女性支援」「日本人と教育」「テレビによる集団の形成と断絶」「ムスリム社会における邪視」「津軽の料理」「身体とコミュニケーション」「日本女性の化粧意識」(以上 8 本)

[修士論文]

「アイヌの口頭伝承：語りと交換を手がかりに」(以上 1 本)

[地域連携]

- ・「世界遺産ナスカの地上絵謎展」(展覧会)，主催 / 世界遺産ナスカ地上絵の謎展実行委員会・河北新報社・TBC 東北放送・財団法人斎藤報恩会，自然史博物館 (仙台)，2008 年 7 月 4 日～8 月 31 日。
- ・「ナスカの地上絵と古代アンデス文明」(講演会)，主催 / 河北新報社主催，ホテル仙台プラザ，2008 年 7 月 20 日。
- ・「ナスカ地上絵と古代アンデス文明」(出張授業) 青森東高等学校，2008 年 10 月 10 日。
- ・「ナスカ地上絵と古代アンデス文明」(創立 88 年記念講演) 天童高等学校，2008 年 10 月 17 日。
- ・「ナスカ地上絵：どこまで解読されたのか？」(出張授業) 新庄北高等学校，2008 年 10 月 20 日。
- ・「インカ帝国とナスカ地上絵の謎に迫る」(講演会) 主催 / 山辺町教育委員会 Taiken 堂運営委員会，2008 年 10 月 21 日。
- ・「ナスカ地上絵と先史アンデス文明」(出張授業) 札幌旭高等学校，2008 年 11 月 12 日。
- ・「ナスカ地上絵と先史アンデス文明」(出張授業) 秋田中央高等学校，2008 年 11 月 20 日。
- ・「世界遺産ナスカ地上絵の謎」(出張授業) 自修館中等教育学校，2008 年 11 月 22 日。
- ・「ナスカ地上絵：自然環境と人間の営みをめぐって」(講演会)，主催 / 山形県高校地理教諭研究会，2009 年 2 月 20 日。
- ・「ペルー世界遺産紀行」(主催 / NHK 文化センター・山形教室) 2009 年 3 月 30 日～4 月 6 日

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

「ナスカの地上絵に関する実証的研究：制作方法と制作目的の解明にむけて」(第 36 回三菱財団人文科学研究助成・研究代表・坂井正人) および「ペルー，ナスカの地上絵の学際的研究」(科学研究費補助金・基盤研究(B)・研究代表・阿子島功) によって，ナスカの地上絵に関する現地調査を実施した。今年は特に「動物の地上絵」および「現代の地上絵」に注目して研究した。さらに，ペルー

北部高地のパコパンバ遺跡の考古学調査 (科学研究費補助金・基盤研究 (A)・研究代表者・国立民族学博物館教授・關雄二) に参加して、この遺跡の景観構造に関する調査を継続した。

なお、山形大学でこれまで行ってきた地上絵研究の成果をもとにして、展覧会「世界遺産ナスカの地上絵謎展」を自然史博物館 (仙台) で、2008年7月4日～8月31日に開催した。

講義と演習では、世界の諸民族に関する事例を検討することで、文化人類学の基本的な考え方、民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。また山形市山寺地区で、文化人類学調査 (第11次) を実施した。

佐藤 清人

(1) 研究成果

なし

(2) 教育、地域連携等の活動

[主な授業科目]

英語 (R)、英語 (C)、実践英語 (二)、英米文学概論、文化環境学 (二)、英文学演習

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、日系アメリカ文学の研究を継続的に行った。

教養教育では、TOEIC対策に対応する授業を試験的に行った。

専門教育では、学生の理解を重視し、配付資料に工夫しながら授業を行った。

嶋田 珠巳 (平成21年10月着任)

(1) 研究成果

[論文]

アイルランド英語 be after V-ing の表現効果 have 完了との対立を中心に、『東京大学言語学論集』第27号, 187-206頁, 2008年9月。

[学会発表]

Topic, focus and 'salience': processing presuppositions and mental pictures in the linear nature of language, Information Structure between Linguistics and Psycholinguistics (IS 2009), ベルギー・ルーヴァン大学, 2009年3月。

文法知識の多層性 アイルランド英語話者の文の容認判断に関する社会言語学的考察, 社会言語科学会第23回大会, 東京外国語大学, 2009年3月。(『社会言語科学会第23回大会発表論文集』120-123頁)

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

日本學術振興会特別研究員として、東京大学大学院人文社会系研究科にて「クレオールとしてのアイルランド英語の文法体系に関する動態的研究」を行った。

鈴木 亨

(1) 研究成果

論文

・「結果構文における動詞主導型と結果句主導型 - 有界性制約から考える」, 山形大学人文学部研究年報 (第6号), 15-34

(2) 教育、地域連携等の活動

・担当授業: 英語 C, 英語 R, 英語学概論 (二), 実践英語 (二), 言語学基礎, 英語語法論特論, 英

語語法論特別演習

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、結果構文の半生産性について文法面から考察を進めた。教育面では、英語学概論と実践英語において、授業時間外の課題として多読レポートを課し、多面的な英語力の養成に努めた。教養教育の英語では、すべての授業でテキストの内容を毎回復習させる小テストを行い、自宅での学習を促した。

富澤 直人

(1) 研究成果

論文

・“NPI licensing by FORCE_U features,” Annual Research Report, Faculty of Literature & Social Sciences, Yamagata University, 6, 35-50. H20.3

(2) 教育、地域連携等の活動

教育

前期：英作文（中級）、英語学特殊講義、英語（R）、英語（R）、英語（C）、特別研究

後期：英語学演習、英語（R）、英語（R）、特別研究

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

なし

富田 かおる

(1) 研究成果

“Effects of personal names’ familiarity on speaker’s vowel articulation,” Bulletin of Yamagata University ‘humanities) 16:4, 69-85.

(2) 担当授業：英語学特殊講義、英語学演習、英語(R)、英語(C)

(3) 言語の生成を主なテーマとし、特に発話の音響分析を基に、米国人話者の母音のフォルマンと特徴の測定と分析を行った。

中澤 信幸（平成 20 年 10 月着任）

(1) 研究成果

[口頭発表]

・ Application of Japanese Kanji Characters’ Pronunciation in the Education of Chinese Pronunciation (日本漢字音を中国語発音学習に活用するには)、第 1 回中日高専（高職）学校教育フォーラム、中国・承德石油高等専科学校、2008. 5.13

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

・ 日本語学特殊講義、日本語学演習（学部専門教育）

[地域連携]

・ NHK 文化センター山形教室 講師

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

日本漢字音と中国語音との対照研究を進め、それを語学学習に生かす方法を模索した。その研究成果について中国で発表した。また前年度から引き続き、日本における「呉音」「漢音」といった漢字音の枠組みの変遷についても調査した。

永野 由紀子

(1) 研究成果

【著書】

(共著)『変わるバリ, 変わらないバリ』(倉沢愛子・吉原直樹編) 勉誠出版, 担当部分: 「エスニシティと移住者」148-168頁, 2009年3月

【論文】

「姉家督と『家』」『ヘスティアとクリオ』No7, 33-54頁, 2008年8月

【その他】

(書評) つる理恵子著『農家女性の社会学』『農業と経済』6月号, 2008年5月、110頁,

(書評) 天野寛子・粕谷美砂子著『男女共同参画時代の女性農業者と家族』『図書新聞』2889号, 5面, 2008年)10月,

(コラム)「バリ下層社会」倉沢愛子・吉原直樹編『変わるバリ, 変わらないバリ』勉誠出版, 104-105頁, 2009年3月

(コラム)「スパック」倉沢愛子・吉原直樹編『変わるバリ, 変わらないバリ』勉誠出版, 192-193頁, 2009年3月

(2) 教育, 地域貢献等の活動

【担当授業科目】

社会を見る眼(教養教育), 人間文化総合講義, 社会学基礎, 社会調査論, 社会調査実習, 社会学演習, 現代社会学演習

【卒業論文】

「子どもの文化活動が地域に与える影響」, 「児童虐待支援の現状と課題」, 「『資本論』に見る資本主義者とそこに生きる人間の問題」, 「高齢者の社会参加活動の意味と影響」の卒業論文を指導した。

【地域貢献】

・山形県障がい者施策推進協議会委員

(3) 平成20年度の研究・教育活動についてのコメント

教育面では, 連絡責任者として社会調査士認定機構と連絡を取り, 3年生には社会調査士(取得見込み)の資格, 卒業生には社会調査士の資格の取得を仲介した。

研究面では, 平成19年度~平成21年度 科研費, 基盤研究(C)「イエ存続戦略と地域ネットワークの展開に関する経験的研究」の代表者として, 日本の農村や農村家族の比較研究を行った。また, 呼びかけ人の一人として「村落研究を語る会」の第5回~第8回までの研究例会を企画・運営した。

中村 篤志

(1) 研究成果

学会発表

・「清代モンゴル社会におけるソムの位置付けをめぐる」2008年10月5日東北史学会・東洋史部会(於秋田大学)

・「清代モンゴル史研究の現状とソムをめぐる諸問題」2009年1月24日北アジアにおける帝国統治とその遺産に関する研究・第5回研究会(於東北大学東北アジア研究センター)

(2) 教育・地域貢献等の活動

[担当授業]

東洋史概論(二), 東洋史演習(二), 東洋史講読(二), 歴史学基礎, 文化人類学・宗教史講義(三), 北アジア遊牧民の歴史(教養・歴史学), モンゴル・遊牧を考える(教養・歴史学)

[教育活動]

- ・ 卒論指導：中国中世史、イスラム史をテーマとする卒業論文を指導した。
- (3) 平成 20 年度の研究、教育活動に関するコメント
- ・ 平成 20 年度は、文部科学省の大学教育国際化推進プログラム・海外先進研究実践支援を受けて、北京の中国人民大学において調査・研究に従事した。今年度前半 4 月～9 月も、引き続き同大学において研修をおこなった。
 - ・ 辞典の項目や書評などを執筆し提出した（次年度の出版予定）。
 - ・ 海外渡航のため授業は後期のみとなったが、卒論指導なども含めほぼ従来通りの授業を担当した。今年度より文化人類学・宗教史専修と授業協力をおこない、講義をひとつ開講した。

中村 隆

(1) 研究成果

[研究発表]

「家族団欒図について クルックシャンクの挿絵とホガースの油彩画」(ヴィクトリア朝研究会、2008 年 8 月 24 日)

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

英語 (C) および (R)、欧米文化演習、英米文化論、英米文学講読

[地域連携]

本荘高校での出張講義「ホガースの版画と 18 世紀英文学」(2008 年 7 月) 秋田県北部 5 校への高校訪問 (2008 年 10 月)

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究：ホガースとクルックシャンクを中心テーマとして、挿絵と版画における画家と作家の優先権論争の意味について考察した。

教育：教養英語では、主として速読対策に取り組んだ。専門教育では、物語を語る視点の可能性と妥当性について、学生による口頭発表という形を通して、学生たちとともに議論し、考察した。

中村 唯史

(1) 研究成果

[著書]

1. 『多様性と可能性のコーカサス：民族紛争を超えて』、北海道大学出版会、2009 年 03 月 (共著)、第 5 章 特権的トポスのはじまり：コーカサス表象の原型と「他者の声」について (155-183 頁) 担当。

[論文]

1. 「打算なき剰余」をめぐって：パフチンとエイヘンバウムから、「平成 18-19 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C：課題番号 18520172) 「ロシア・フォルマリズム再考：新しいソ連文化研究の枠組における総合の試み」研究成果報告書」、2008 年 05 月、60-75 頁
2. 歴史への内在：ボリス・エイヘンバウムの世界観、『山形大学人文学部研究年報』 6 号、2009 年 03 月、121-142 頁
3. 誰のものでもない視点は可能か：マンガにおける描き分けの基準をめぐって 『ナラティブ・メディア研究会活動報告書 2008 年』 2009 年 03 月、3-17 頁

[書評・エッセイ等]

1. 「テキストに寄り添い、音色に耳傾けて、底に響くかすかな基調を聞き分ける：現代ロシア文学への道案内。書評：岩本和久著『トラウマの果ての声』」, 図書新聞, 2865号, 2008年04月, 4頁
2. 山形新聞コラム「<ことば>の杜へ」担当。2008年5月18日(太宰治『葉』), 同7月11日(アイザック・バシェビス・シンガー『ショーシャ』), 同9月6日(アレクサンドル・ソルジェニーツィン『イワン・デニーソヴィチの一日』), 同11月1日(堀田善衛『広場の孤独』), 同12月27日(漆原友紀『蟲師』), 2009年3月7日(田宮虎彦『霧の中』)

[口頭発表等]

1. 誰のものでもない視点は可能か：マンガにおける描き分けの基準をめぐって, ナラティブ・メディア研究会 2008年度第1回研究会, 2008年7月11日, 於東北大学
2. 大阪大学世界言語研究センター「民族紛争の背景に関する地政学的研究」プロジェクト(複合分野)国際ワークショップ「ソ連の言語・文化政策とその影響 - グルジアの事例から考える」コメンテーター, 2009年2月21日, 於大阪市・千里ライフサイエンスセンター

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

教養教育：ロシア語, ロシア語

専門教育：欧米文化基礎, 欧米文化概論, 人間文化基礎入門, 比較文化講義, 表象文化講義, ロシア語学演習, ロシア文化講読

大学院：ロシア東欧文学特論, 同特別演習

[指導卒業論文テーマ]

「マンガの語り論」「ポップカルチャーにおける音楽表現論」「NHK 幼児番組論」「探偵小説と現代」「イディッシュ文学に現れるシュレミールと時間」「レイモンド・カーヴァーと村上春樹」

[地域連携等]

- ・宮城学院女子大学非常勤講師(「表象文化論」担当)
- ・北海道大学スラブ研究センター共同研究員
- ・日本ロシア文学会 国際交流委員
- ・「ロシア語ロシア文学研究」(日本ロシア文学会), 「Japanese Slavic and East European Studies」(JSEES), 「スラヴ研究」「Acta Slavica」(北海道大学スラブ研究センター) 誌査読担当
- ・模擬講義：鶴岡北高校(於小白川キャンパス, 2008年7月4日), 多賀城高校(於小白川キャンパス, 同9月8日)
- ・出張講義：佐渡高校(2008年8月22日), 会津学鳳高校(同10月17日), 酒田西高校(同10月23日), 会津高校(同11月15日)
- ・山形新聞「山新文学賞」選評担当：2008年12月分から毎月1回
- ・山形フォーラム「ロシア文学映画館シリーズ」解説：第2回(『罪と罰』2008年12月16日), 第3回(『アンナ・カレーニナ』2009年1月23日), 第4回(『クロイツェル・ソナタ』2009年2月27日)担当。

(3) 平成20年度の研究, 教育活動に関するコメント

特にありません。

西上 勝

(1) 研究成果

[論文]

「蘇黄題画跋と画人伝の成立」岡山大学『中国文史論叢』, 第 5 号, pp33-55,
平成 21 年 3 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

専門教育: 文化環境学 (二), 中国文学概論など

教養教育: 外国語科目中国語 及び

平成 20 年度人文学部公開講座担当講師 (6 月)

放送大学対面講義 (中国語初歩) 担当

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度は, 科学研究補助金による基盤研究 (C) 「宋人題跋の文学的研究」(課題番号 20520315)
の研究初年度である。

福野 光輝

(1) 研究成果

[分担執筆]

福野光輝 (2009). 公正・公平 遠藤由美 (編著) 社会心理学, ミネルヴァ書房, 226-243.

[学会発表]

福野光輝 (2008). 葛藤解決における第三者の意思決定: 当事者との関係と説明責任の効果. 北海道
心理学研究, 31, 59.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

[担当授業]

「人間行動の科学 (心理学)」(前期・後期), 「社会心理学概論」(前期), 「心理学研究法演習」(前
期・後期), 「心理学実験」(前期), 「心理学特殊実験」(前期・後期), 「人間文化入門総合講義」(前
期, 第 4 回担当), 「行動科学情報処理実習」(前期), 「心理学基礎」(後期)

[卒業論文指導]

「作業環境の違いが報酬の分配に及ぼす影響について」

「性的な態度は顔で判断できるか」

「恥の意識が認知的不協和に与える影響について」

「後悔は集団意思決定を改善するか」

「視線の一致が単純接触効果に及ぼす影響」

「悲しみ情動が攻撃行動に与える影響について」

「内集団ひいきその原因について」

[出張講義]

福野光輝 (2008). 心理学ってなんだろう. (白河旭高等学校, 福島県白河市, 2008 年 12 月 2 日)

福野光輝 (2009). 山形大学キャンパス訪問: 心理学ってなんだろう. (北村山高等学校, 山形県尾花
沢市, 2009 年 2 月 10 日, 来学者 9 名に対し模擬講義および心理学専修の紹介を行った)

福山 泰男

(1) 研究成果

「曹植と『国難』 先秦漢魏文学における国家意識の一面」(『山形大学人文学部研究年報』第 6
号, 2009.3)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・山形大学人文学部公開講座担当: テーマ「中国映画の中の日本 歴史の記憶とその表象」(2008.6)
- ・哈爾濱工業大学との大学間交流協定締結にあたりコーディネーターとして準備を進めた。調印式に際し学長に随行して現地訪問, 今後の交流活動についても種々協議した。同時に協定校である吉林大学・哈爾濱医科大学, また黒竜江省外事辦公室を訪問し, 研究・教育交流に関し協議した。(2008.9)

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

大学間交流協定の締結推進, および, それに伴う国際共同研究の基盤整備と学生の交換留学制度の拡充・実施のために, 些少ながら仕事をした。さらに, 自分の研究を, 海外の大学における研究者・研究組織と, 具体的に連携させていくことが今後の課題といえよう。

藤澤 秀光

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当授業名
(学部) 専門基礎英語, アメリカ研究演習, アメリカの社会・文化
(大学院) 英米現代文化論特別演習
- ・地域連携活動 (ボランティア)
国際ロータリー第2800地区財団奨学生選考委員
国際ロータリー第2800地区ロータリー学友会代表幹事
山形市第3学区防犯担当役員
山形大学附属小学校PTA役員
山形市立第5中学校同窓会役員

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・ユダヤ系, 日系といったアメリカの少数民族に関する小説, 演劇, 雑誌, 新聞, 広告, CM, 映画, TV番組, 音楽, スポーツについての文字化, 音声化, 映像化された文化的生成物を対象にした研究を行っています。
- ・教育活動としては学部学生2名, 大学院生1名をロータリー財団奨学生として, 海外留学が実現するまで, つまり, 奨学金申請から留学先の大学決定まで, 指導を行いました。さらに中学高校教員免許更新講習の担当教員を務めた。

本多 薫

(1) 研究成果

論文

- 1) 本多薫: ウェーブレット変換を用いた心拍変動解析の基礎的検討--計算課題による精神的負荷時のパワースペクトルについて, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第5号, p.1-13, 2008年8月
- 2) 本多薫, 森田光宏, Mark IRWIN, 冨田かおる, Todd ENSLEN, Jerry MILLER: インターネットを利用した英語学習支援システムの構築 - 動画配信によるPodcastingの試み -, 山形大学人文学部年報, 第6号, p.51-70, 2009年3月

学会発表

- 1) 本多薫: 大学入学時の情報処理の能力と知識について, 日本教育工学会第24回全国大会講演

論文集 (上越教育大学), p.167-168, 2008 年 10 月

- 2) 佐藤歩, 本多薫, 門間政亮, 西田幸夫, 辻本誠: 地下駅舎の出口探索行動中の心拍変動に関する実験的研究, 日本建築学会 2008 年度大会学術講演概要集 (広島大学), A-2 分冊, p.51-52, 2008 年 8 月
- 3) 本多ふく代, 本多薫: 学童期児童における円なぞり課題の速さ・正確性トレードオフ関係に関する実験的考察, 日本作業療法学会抄録集 (長崎学会), 第 42 巻, p.203, 2008 年 6 月
- 4) 森田光宏, 本多薫, 富田かおる, Mark IRWIN, Todd ENSLEN: 動画配信による英語学習支援 - 動画教材に対するイメージ -, 2008 年度 ICT 活動報告集 (早稲田大学), p.139-147, 2009 年 3 月

その他

- 1) 本多薫: ビジネス・キャリア検定試験 標準テキスト「生産管理オペレーション (購買・物流・在庫管理) 2 級」, 中央職業能力開発協会編 (社会保険研究所出版), 第 3 章 (第 2 節) 統計的手法とその活用, p.200-234, 2008 年 11 月 28 日発行, (ISBN978-4-7894-9970-5)
- 2) 本多薫: ビジネス・キャリア検定試験 標準テキスト「生産管理プランニング (製品企画・設計監理) 2 級」, 中央職業能力開発協会編 (社会保険研究所出版), 第 2 章 (第 2 節) 統計的手法とその活用, p.136-163, 2008 年 11 月 28 日発行, (ISBN978-4-7894-9910-1)

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業: 情報処理 (教養), 公務員対策セミナー, 共生人間学, 人間情報科学概論, 人間情報科学基礎, 人間情報科学演習, 人間情報科学実習, コンピュータ・ネットワーク論 (学部), 人間情報科学特論, 人間情報科学特別演習, 心理・情報特別研究 (大学院)

卒業研究の指導 (人間情報科学専修担当として指導):

- (a) コンピュータを介在したコミュニケーションに人が求めるもの - その中で SNS が果たしている役割 -
- (b) インターネット時代のメディア・リテラシーに関する研究
- (c) ウェブサイトを用いたファンスキーの技術習得支援システムの開発
- (d) ニュース記事ソフトウェアの開発

修士学位論文の指導:

- (a) 二重課題遂行における負荷に関する実験的検討

地域貢献活動等:

- (a) 放送大学山形学習センター客員准教授 (学習相談等を担当した)
- (b) 東北芸術工科大学非常勤講師 (「コンピュータ応用演習」を講義した)
- (c) 放送大学非常勤講師 (「パソコンによる情報活用入門」を講義した (集中講義))
研究室訪問受入 (山形県立新庄北高校)
- (e) 山形県工賃向上事業アドバイザー
- (f) 日本経営工学会東北支部 運営委員
- (g) 日本人間工学会 評議員

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 20 年度は, 生体情報処理, ネットワークを用いた教育支援などの研究を進めた。また, 教育としては, 情報科学関連の講義を担当するとともに, 清塚邦彦教授との共同で卒業研究の指導, 渡邊洋一教授との共同で修士学位論文の指導を行った。

松尾 剛次

(1) 研究成果

(著書)

単著

1) 『破戒と男色の仏教史』平凡社、2008年11月、p1 - p207(朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞などで書評されました。)

2) 『山をおりた親鸞 都をすてた道元』、法蔵館、2009年2月、p1 - 201

共著

1) 遊学館ブックス『もがみ川～記憶と再発見～』(財)山形県生涯学習文化財団(共著)、2009年3月

(論文)

1) 「The Life of Eizon」(Translated by Ugo Dessi) 『THE EASTERN BUDDHIST』, Vol.39 No.2 2008, (p95 - p123)

2) 「日本中世律宗の展開 - 伊勢弘正寺・円明寺を中心に - 」 『宗教研究』 359, 2009年3月, p371 - 372

3) 「新たな伊勢中世史像の再構築 - 謎の楠部大五輪と楠部弘正寺・岩田円明寺 - 」 皇學館史學第24号, 2009年3月, (p1 - 26)

4) 「京都洛西山田浄住寺境内絵図の現地比定について」(阿子島功と共著) 『山形大学歴史・地理・人類学論集』 10, 2009年3月 (p1 - 10)

(その他)

1) 「子供と遊ぶ禅僧良寛」 『別冊太陽 153 良寛 聖にあらず、俗にもあらず』平凡社、2008年6月 (P52-54)

2) 「仏教・宗教関係書 今年の3冊」 『週刊仏教タイムス』 2008年12月11日

3) 「現代における仏教の役割 - 葬式仏教再考 - 」 『親鸞仏教センター通信大 29号』 2009年3月1日

教育、地域連携の活動

1 平成20度における授業、ゼミ、卒論指導

仏教入門、歴史学入門(一般教育)、文化人類学・宗教史基礎、比較基層社会史、比較宗教生態史、文化人類学・宗教史講読(1)、文化人類学宗教史演習(1)、文化人類学宗教史実習、日本史演習(3)(以上、学部)日本中世宗教文化史特殊講義、特別研究(以上、大学院)Japan study programなど担当

学部生19名、卒論指導(4年)3名と2名の大学院生の指導を行った。

2 地域連携活動

・山形県生涯学習財団「山形学」企画委員として、「最上川」と題し公開講座などを主導した。

・山形大学都市地域学研究所の所長として、公開講座「山形魅力再発見 パ-ト6

山形から日本そして愛を伝えた男たち」を実施

・NHK文化センターで講座を担当した。

・以下の講演を行った。

講演「中条家文書の世界」(山形大学人文学部)、2008年11月5日

講演「羽黒修験の新発見」(いでは文化講演会)、2008年11月9日

3) 平成20年度の研究・教育・地域連携活動に関するコメント

著書3冊、論文4編、その他3編と研究面で大いに成果があった。とくに、6月には、伊勢弘正寺五輪塔の発見があり、マスコミに大きく取り上げられた。また、拙著『破戒と男色の仏教史』は、朝日新聞ほかで取り上げられた。

教育面では、英語による日本仏教史の講義を担当するなど成果があった。山形学企画委員として、山

形県の生涯学習に貢献した

三上 喜孝

(1) 研究成果

著書、論文、エッセーなど（出版社〔発行母体〕、発表誌、巻号数、ページ）

- ・三上喜孝「唐令から延喜式へ - 唐令継受の諸相 -」大津透編『日唐比較律令研究の新段階』山川出版社、2008年11月、257～275頁。
- ・三上喜孝「『延暦帝の時代』の列島社会」『桓武と激動の長岡京時代 歴博フォーラム』山川出版社、2009年1月、83～94頁。
- ・三上喜孝「古代東アジア出挙制度試論」『アジア研究機構叢書人文学篇 第1巻 東アジア古代出土文字資料の研究』雄山閣、2009年3月、264～283頁。

(2) 教育、地域連携等の活動

2008年度における授業（担当授業名）

一般教育科目「論争する歴史学」「貨幣からみた日本の歴史」（各2単位）

専門科目「歴史学基礎」「日本史概論（一）」「日本史講義（一）」「日本史講読（一）」「文化財調査実習」（各2単位）「日本史演習（一）」（4単位）

大学院「日本古代史特論」「日本古代史特別演習」（各2単位）

修士論文・卒業論文の紹介

（卒業論文）「古代社会における老いについて」「古代の殺牛について」「古代陸奥の産金」「古代の書籍文化と学びの様相 芸亭を中心に」「藤原頼通の摂関政治について 春記の検討を中心に」「平安時代における過差についての考察 十・十一世紀を中心に」「古代における祥瑞と権力」

地域連携活動（審議会、講演会、ボランティア等）の紹介

NHK文化センター（山形教室）講師（2008年7月～9月）講座題「1000年前の山形」

金山町歴史学講座「羽州街道と中田地域」（2008年9月10日、於金山町中田地区公民館）

(3) 2008年度の研究・教育活動に関するコメント

研究分野では、韓国古代木簡に関わる研究や、日唐律令法の比較研究、古代宮都研究についての成果を公表した。科学研究費補助金による若手研究（B）のほか、共同研究3件に参加し、多方面に渉り研究活動を行った。教育面では、講読や演習を通じて文献史料の読解に重点を置いたほか、実習（奈良・京都方面）や合宿（金山町）等を通じて生の歴史資料を見る機会を提供した。卒業論文の指導にも力を入れた。

元木 幸一

(1) 研究成果

〔著書〕『ルネサンス美術館』（共著、全4章中2章担当）、小学館、2008年10月

(2) 教育、地域連携等の活動

〔授業〕

聖母・魔女・お姫様（芸術）、西洋美術への招待（芸術）、芸術文化基礎、芸術文化概論、芸術文化特殊講義、美学・芸術学演習、美術史演習、芸術文化実習、表象文化（美学・芸術学）特論、表象文化（美学・芸術学）特別演習、欧米文化特別研究I、II

卒論指導「松本竣介とアメリカン・シーン」「聖カタリナと運命の車輪---クラナハ作《聖カタリナ

祭壇画》をめぐって---」 「山形の画家 真下慶治研究」

[地域連携]

放送大学客員教員

[講演会等]

「西洋美術への招待：キリスト教美術の基本を学ぶ」NHK文化センター山形教室講座（山形大学との提携講座）

「シャガール 夢と現（うつつ）《逆さ世界のヴァイオリン弾き》」山形大学附属博物館公開講座

「お笑い美術館」山形大学OBセミナー講演（東京サテライト）

「授業改善をどのようにすすめるか～学生主役の授業を展開するために～」青森中央短期大学FD研修会

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

『ルネサンス美術館』は、2006年からの企画がやっと成就したものだ。厳しい編集方針の下での仕事だっただけに、完成してほっとしている。平成20年度の卒論指導は、それぞれにこれまでにない独特のテーマだったので、こちらも楽しむことができた。特に「聖カタリナと運命の車輪---クラナハ作《聖カタリナ祭壇画》をめぐって---」はオリジナルな視点を出すことがきわめて困難なキリスト教絵画において、独自の解釈を提示し、通常の卒論レベルをはるかに超える素晴らしい出来だった。その論文は、2009年10月にふすま同窓会から「ティーデマン・ふすま賞」を受賞することになる。

森岡 卓司（平成21年4月着任）

(1) 研究・教育活動

[口頭発表]

森岡卓司「足痕の消し方 - 「手記」としての『痴人の愛』」様式史研究会第50回記念研究発表会、2008年7月27日、山形大学

[その他]

森岡卓司「谷崎との散歩 戦後批評史と異文化接触というテーマ」日本近代文学会東北支部『会報』、2008年4月20日、pp4～6

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業名]

日本現代文学講義（非常勤として）

(3) 平成20年度の研究・教育活動に対するコメント

平成20年度科学研究費補助金基盤研究（C）、「1960年代日本における文学概念の変容についての総合的研究」（課題番号20520152、研究代表者北海道大学大学院准教授押野武志）、および「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動態的・文化史的総合研究」（課題番号20520153、研究代表者東北大学大学院教授佐藤伸宏）の両共同研究の研究分担者として研究を進めている。

森田 光宏

(1) 研究成果

【学術論文・研究報告書】

1. 森田光宏（2009）. 外国語 e-learning 教材の学習効果 山形大学人文学部における事例 『東北英語教育学会紀要』、第29号、87-98

2. 本多薫・森田光宏・Mark IRWIN・富田かおる・Todd ENSLEN・Jerry MILLER.(2009). インターネットを利用した英語学習支援システムの構築 - 動画配信によるPodcastingの試み- 『研究年報』、第6号、51-68. 山形大学

3. 森田光宏、本多薫、富田かおる、Mark IRWIN、Todd ENSLEN (2009). 動画教材配信によ

る英語学習支援 動画教材に対するイメージ . 『全国調査から見える ICT 教育 実践・評価・理論 2008 年度 ICT 活動報告書』(pp.139-147). 大学英語教育学会(JACET)ICT 特別委員会

【学会発表・ワークショップ】

1. 森田光宏, 本多薫, 富田かおる, Mark IRWIN, Todd ENSLEN 「動画配信による英語学習支援」ICT 合同研究会 (早稲田大学) (2009 年 3 月 14 日)
2. 「小テスト機能を利用した自学自習の促進」アルク教育社 e-learning ワークショップ in 東京 (アルクイベントホール)(2008 年 9 月 28 日)
3. 森田光宏 「日本人英語学習者の心的辞書における er 接辞付き語の表示」 第 34 回全国英語教育学会東京大会 (昭和女子大学) (2008 年 8 月 9 日)
4. 松野和子, 阪上辰也, 村尾玲美, 森田光宏 「産出過程情報を付与した学習者コーパス構築の試み」外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部 第 72 回 (2008 年度秋季) 支部研究大会 (名古屋学院大学) (2008 年 11 月 29 日)

(2) 教育, 地域連携等の活動

教養教育担当授業: 英語(C), 英語(R), 英語(CR)(工学部 B コース)

専門教育担当授業: 実践英語(一), 英語学演習

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

[研究]

- ・平成 19 年度より科学研究補助金 (日本学術振興会 平成 19, 20, 21 年度 若手研究 (B) 課題番号: 19720131) の交付を受け, 「日本人英語学習者の派生接辞付き英単語の認知に関する研究」を行っている。
- ・平成 19 年度に引き続き, 人文学部研究活動支援を受け, マーク・アーウィン, 本多薫, 富田かおるの各氏とともに, 「ポッドキャストを利用した英語教育の基礎研究」に取り組んでいる。
- ・文章産出過程を情報として含む新しい形式の日本人学習者コーパス「動的コーパス」を構築し, 日本人英語学習者の英語産出過程を明らかにすること試みた。

[教育]

- ・受講生らが互いに知識を確かめ合い, 高め合うように授業内容を工夫した。

山崎 彰

(1) 研究成果

・訳書

ユストゥス・メーザー 『郷土愛の夢』(近代社会思想コレクション第 2 巻), 京都大学学術出版会, 2009 年 4 月 (肥前栄一他 3 名との共訳, ならびに解説執筆)

・書評

「及川順著 『ドイツ農業革命の研究』」『農業経済研究』第 81 巻第 1 号, 2009 年 6 月

「肥前栄一著 『比較史のなかのドイツ農村社会』」『歴史と経済』第 205 号, 2009 年 10 月

・シンポジウム報告

日独歴史家会議プログラム「改革と復古: 日本とプロイセンにおける政治的, 社会的, 文化的変容」(2009 年 9 月 18/19 日, 東京大学駒場キャンパス) において Japanese Forschungen zur Preussischen Reform in Vergangenheit und Gegenwart を報告。

(2) 教育, 地域連携等の活動

・教養教育

「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」「ヨーロッパ史の中のドイツ」。他に「自分の未来を描いてみる - キャリア形成論」を企画し, 実施した。

・専門教育

「歴史学基礎」「西洋史概論(二)」「西洋史講義(二)」「西洋史演習(二)」「西洋史講読(二)」。
以上の他に松本邦彦准教授とともに「地域づくり特別演習(二)」を企画、実施した。これは学生たちが山形市内のNPO団体の協力を得て、研修を中心にまちづくりを学ぶ授業である。

・大学院教育

「ドイツ史特論」「ドイツ史特別演習」を用意したが、今年度は受講者はなし。

- ・卒業論文指導としては、近代イギリス女性史、近代ハンガリー政治史の論文指導を行った。
- ・社会連携の分野では、本学と山形交響楽団ならびに山形国際ドキュメンタリー映画祭との連携事業を準備し、8月4日に両団体と山形大学の協力協定締結のための作業を行った。また2010年に山形市で開催予定「アフィニス夏の音楽祭」のための準備会議に山形大学代表として参加した。さらに映画祭ライブラリー分館を本学付属図書館に開設するとともに、『現代日本・若者たちの肖像・山形国際ドキュメンタリー映画祭フィルムライブラリーセレクション』第1集(山形大学出版会)を刊行した。

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・科研費(基盤研究C)「19世紀前半ブランデンブルク農村社会の紛争と社会的調整に関する実証的研究」(代表・山崎彰)の3年目(最終年)として、まとめにかかっている。
- ・研究の主テーマを18世紀史から19世紀史にこの数年移行させたが、これに伴い講義や演習でも、中心を近世史から近代史に移動させつつある。
- ・「地域づくり特別演習(二)」では新たな受入団体をさらに増やし、学生の期待に応えたい。

山田 浩久

(1) 研究成果

著作

- ・『日本の地誌4 東北』, 朝倉書房, 2008年4月.
- ・『地図で読み解く 日本の地域変貌』, 海青社, 2008年11月.

口頭発表

- ・「デジタルデータによる空間表現の可能性」, 2008年5月, 東北地理学会.
- ・「山形市における郊外開発の特徴と今後の課題」(共同), 2008年10月, 日本地理学会.
- ・「土地利用変化の定量的分析におけるデジタルマッピングの有効性」(共同), 2008年10月, 日本地理学会.
- ・「わが国におけるバブル崩壊後の居住地域構造の変容」, 2008年11月, 人文地理学会.

(2) 教育

教養教育: 都市論(地理学)

学部教育: 地理学基礎, 人文地理学概論, 地誌学, 環境地理学演習, 地域構造論演習, 環境地理学調査実習, 都市地理学調査実習, 共生人間学(一), 人間文化入門総合講義

大学院: 経済地理学特論, 経済地理学特別演習

(3) 地域連携

- ・山形県総合政策審議会特別委員
- ・山形県広域調整会議委員
- ・「官学金」連携事業上市市コーディネータ
- ・長井市経済再生先約会議コーディネータ

(4) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

大都市圏における地価変動メカニズムの解明という専門領域よりも地域との連携事業を重視した 1 年であった。施策に対する理論からの指摘を行う以外にも、地域の人材を大学に招いたり、学生を現地に派遣することによって、地域の方向性を全員で考えていけるような仕組みを作っていきたい。

横山 敏

(1) 研究成果

[論文]

- ・「須藤克三論」, 日本公民館学会編 『日本公民館学会年報』第 5 号, 2008 年 11 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

・専門

人間文化基礎演習, 共生人間学(一), 社会学基礎, 現代社会学, 比較社会システム論, 調査方法論, 社会学演習, 現代社会学演習

・教養教育

家族と地域社会(社会学), 市民社会と大衆社会(社会学)

・大学院

地域社会計画特別研究

[地域連携]

- ・山形県農業会議評価委員
- ・山形県社会福祉協議会社会福祉人材センター運営委員会委員長
- ・山形県教育文化会議理事
- ・財団法人情報社会学研究所理事
- ・出張講義: 山形県立谷地高等学校, テーマ「家族・職場から地域社会へ」
- ・学生の引率: 農事組合法人置賜産直センターの「田んぼの生き物調査」に参加

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

・前年度に着手した, 1950 年代に山形県における農山村青年の生活記録運動の出発点の調査研究を継続した。本研究は, 当時全国の青年運動に波及することになるこの運動の最初の研究であり, 現下のトレンドとなりつつある 1950 年代研究の一嚆矢をなす, 重要な研究である。長期の研究により, 成果の獲得を期している。本年度は, 横山個人の研究から首都圏・山形県の研究者 10 人を共同研究へと集団化した。

・山形県教育文化会議の担当者として, 社会学の立場から『教育白書』づくりの企画に参加した。近時の子どもの貧困とその解決の方向性を探るアンケート・サーヴェイによる白書である。

・これまででも, 私の教育研究活動が家族・地域社会の諸問題の解決に寄与する活動と統合する特徴があるが, 本年度はことにその性格が際立つことになったと思う。

ライアン スティーブン

(1) 研究成果

- ・2009. 2 The Role of Ethnocentrism and Cultural Schema in Cross-Cultural Communication: examples of critical incidents between Japanese and English speakers. Yamagata University. Vol. 16, No. 4. pp. 87-104.
- ・2009. 1 Presentation. Seeing both sides: Experiences and observations fro 19 years of living and raising American kids in Japan. Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata Chapter.
- ・2008. 7. Presentation. How Cultural Background Knowledge Can Disrupt Cross-Cultural

Communication: a case between Japanese and English speakers. Applied Linguistics Association of Australia (ALAA). Sydney, Australia.

- ・ 2008. 6. Presentation. How Cultural Background Knowledge Can Disrupt Cross-Cultural Communication: a case between Japanese and English speakers. The International Association of Japanese Studies (IAJS). Yamagata, Japan.

(2) 教育, 地域連携等の活動

International Association for Intercultural Communication Studies (IAICS)

Society for Intercultural Education Training and Research (SIETAR)

Japan Association of Language Teachers (JALT)

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

Research interests include English language education, Intercultural Education and Training. Current research focuses on how cultural schema can result in cross-cultural conflict and misunderstanding.

渡辺 文生

(1) 研究成果

《学会, 研究会などの口頭発表》

“On use of sentence-final expressions in Japanese narrative discourse.” Symposium on Japanese discourse.(Sponsored by the CLA Scholarly Events Fund and the Institute of Linguistics, ESL and Slavic Languages and Literatures) University of Minnesota, USA, 2008.4.1.

“The use of ‘no da’ in spoken and written discourse by native and non-native speakers.” ATJ 2008 Seminar, Atlanta, USA, 2008.4.3.

「ストーリーを語る作文における視点の表現と談話展開について」 International Conference on Japanese Language Education 2008, 釜山外国語大学, 大韓民国, 2008.7.13. (楊蔭と共同発表, 『日本語教育学世界大会《第7回日本語教育国際研究大会》予稿集第2分冊》338-341.)

「初級日本語学習者の教室外活動を支援するための教室内指導 - 電話による問い合わせ・依頼の場面を中心に - 」日本語教育方法研究会, 愛媛大学, 2008.9.20. (澤恩嬉・後藤典子・山上龍子と共同発表, 『日本語教育方法研究会誌』15, 2, 2-3.)

「文脈指示の対照研究から見えてくるもの - 日本語, 韓国語, フランス語, 英語を通して - 」日本語文法学会第9回大会, 甲南大学, 2008.10.19. (庵功雄ほかによるパネルセッション, 『日本語文法学会第9回大会発表予稿集』128-157.)

「語りの談話における文の終わり方について」第3回談話分析コロキウム, 山形テルサ, 2008.12.23.

“An analysis of non-deictic use of demonstratives in narrative discourse.” ATJ 2009 Seminar, Chicago, USA, 2009.3.26.

《出版物》

「初級学習者の自然会話に見られたコミュニケーション上の問題の分析」『山形短期大学紀要』40, 17-35. (後藤典子・澤恩嬉・山上龍子との共著)

「英語および日本語の語りの談話・文章における指示詞」『山形大学人文学部研究年報』6, 1-13.

(2) 教育，地域貢献等の活動

担当授業は，日本語学概論（一）・日本語学概論（二）・日本語学講読（前・後期）・日本語（二）・人間文化基礎演習《以上学部専門科目》，国語の教材研究 B《教職科目》，日本語意味論特論・日本語意味論特演・特別研究《以上大学院科目》・教養教育科目（言語学）・教養教育科目（日本語）。

学生の指導については，日本語学コース 4 名の卒業論文を担当した。

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

研究活動に関しては，研究代表者および研究分担者として関わる科学研究費プロジェクトに関連した研究発表を中心に行った。また，ハルビン工業大学外国語学院との国際共同研究の一環として，釜山で開催された国際学会で研究発表を行った。

2008 年 12 月 23 日には，山形テルサにおいて『第 3 回談話分析コロキウム』という研究発表会を主催した。筑波大学，一橋大学，国際教養大学，ミネソタ大学，リュブリャーナ大学から研究者を招き，談話分析に関わるテーマで研究発表およびディスカッションを行った。

渡辺 将尚

(1) 研究成果

論文：「過去」を背負う者，背負わない者——マルティン・ヴァルザーの戦後ドイツ社会論（「山形大学人文学部研究年報」第 6 号，143～155 ページ，平成 21 年 3 月）

(2) 教育，地域連携等の活動

放送大学山形学習センター客員准教授として，学習相談，ドイツ語講座などを担当した。

渡邊 洋一

(1) 研究成果

[論文その他]

・渡邊洋一，「地上絵の配置に関する認知心理学的研究」，坂井正人編『ナスカ地上絵の新展開 人工衛星画像と現地調査による』山形大学出版会，2008 年，7 月。

[学会シンポジウム]

・渡邊洋一「ナスカ地上絵の空間イメージ」，日本イメージ心理学会第 9 回大会における教育講演，盛岡アイーナ，2008 年 11 月 29 日。

(2) 教育，地域貢献等の活動

a. 担当授業

実験心理学入門（教養教育科目），心理学基礎，情報行動論，心理行動論演習，心理学実験，心理学特殊実験，行動科学情報処理実習（以上専門教育科目），実験心理学特論，実験心理学特別演習（以上，大学院授業科目）。

b. 卒論指導等

4 年生 7 名の卒業論文を指導。

c. 学外活動

日本自動車連盟（JAF）山形支部交通安全実行委員会委員（委員長）。

【法経政策学科】

赤倉 泉

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当授業]

- ・学部専門科目：アジア政治論，アジア政治論演習，総合講座Ⅰ（公共政策）
- ・教養教育科目：政治学入門，中国語
- ・大学院科目：現代中国政治特論

(3) 平成19年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、毛沢東時代の政治を中心とする研究を行った。教育に関しては、専門教育では現代中国を中心に広くアジアの動向を紹介するよう心がけ、留学生を招くなど授業を工夫した。教養教育・政治学では地域の問題を取り入れたり、選挙管理委員会の出前講座を利用したりした。

阿部 未央（平成20年9月着任）

(1) 研究成果

[判例評釈]

「混合診療と保険適用の可否 東京地裁平成19年11月7日判決」法學72巻3号（2008年8月）

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育]

- ・担当授業 法経政策基礎演習（2008年9月赴任のため）

[地域連携]

- ・宮城県社会保険労務士・労務管理研究会にて「内部告発の法的保護」講演（2008年8月）
- ・山形県男女共同参画推進事業「業者婦人の実態調査」の報告書作成（2009年3月）

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究補助金を使い、博士論文をベースにした非正規雇用問題に関する研究を進めている。

和泉田 保一

(1) 研究成果

・判例評釈

「行政機関における権限の委任と住民訴訟四号請求の「職員」の責任」（法政論叢第41・42合併号，7月）pp.99-117

・口頭発表

「東京高判平成18年9月27日判時1961号45頁」（東北大学公法判例研究会，4月）

(2) 教育，地域連携等の活動

・担当授業

行政法，行政法，行政法演習，法経政策学基礎演習，キャリア・ガイダンス（世話人及び「公務員制度」を担当），人文学部公務員講座（集団討論2コマを担当）

・地域連携活動

[審議会委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県医療審議会委員，山形広域清掃工場建設事業及び運営技術審査委員会委員

[外部研修講師]

新潟県自治研修所法制執務研修，9月・（H21年）2月

国土交通省北陸地方整備局法律研修（行政手続法），9月

新潟市役所法学入門基礎講座，（H21年）3月

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

通常授業に加え、学部の委員会の業務の負担が増加した。また、一方で、イギリス行政法研究会の科学研究費補助研究にも参画することになり、研究者としての業績を蓄積していくべき立場にあることも実感した。

岩田 浩太郎

(1) 研究成果

[論文]

- ・「河北地方の地主制の発達と農民」(『河北の歴史と文化』第 5 号, 河北郷土史研究会, 2009 年 3 月, 41~76 頁)

[研究ノート]

- ・「食糧危機と江戸時代」(『歴博』第 150 号, 特集 米, 国立歴史民俗博物館, 2008 年 9 月, 10~13 頁)

[書評]

- ・「書評 白岩町工藤善兵衛日記」(『西村山地域史研究会会報』第 27 号, 2009 年 2 月, 10 頁)

[その他]

- ・「歴研と私 第 44 回 活動と研究と」(『歴史学研究月報』第 587 号, 歴史学研究会, 2008 年 11 月, 10~11 頁)
- ・「九左衛門家の紅花づくり」(NPO 法人柏倉家文化村『文化村だより』第 2 号, 2008 年 12 月, 2 頁)

[科学研究費補助金・人文学部プロジェクト研究]

- ・平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C)「出羽山形の地域特性の歴史的展開に関する基礎的研究 - 山形地域史の再構築 -」(研究代表者)[人文学部プロジェクト研究として継続]
研究メンバー (岩田浩太郎・菊地仁・松尾剛次・三上喜孝・伊藤清郎) による公開研究会を 5 回開催 / 「文殊騎獅像講演会」(人文学部主催, 2008 年 6 月 7 日, 於山形大学教養教育 2 号館 221 番教室, 230 名参加) を開催

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・教養教育科目: 労働者と農民 (経済学), 古文書を読む - 紅花の歴史 - (教養セミナー)
- ・専門教育科目: 日本経済史, 地域経済史, 日本経済史演習, 法経政策総合講座 (オムニバス 1 回担当)
- ・大学院: 日本近世史特論, 歴史文化特別研究 (修士論文指導。平成 20 年度修士学位論文 = 平賀陽子「近世文書の目録編成法について - 二藤部家文書の整理を通じて -」, 高橋拓「近世後期における地方窯業の形成と展開 - 羽州置賜郡成島系窯業の研究から -」をそれぞれ (主) 審査)

[委員会活動]

- ・学部: 経済経営系人事選考委員会委員, 人文社会系博士課程構想に関する意見書作成 (学部長依頼), 「第二期中期目標・中期計画への意見 / 取り扱いの経過と問題点」意見書作成・提出
- ・全学: 山形大学紀要論文審査員

[講演・講座]

- ・NPO 法人柏倉家文化村主催: 「柏倉家文化村まつり」における山形大学人文学部日本経済史 (岩田) ゼミナールによる柏倉家調査報告「江戸時代における柏倉九左衛門家の土地取得の実態」 「柏倉惣右衛門家の金融・商業活動 - 漆取引について -」, 2008 年 10 月 12 日, 於東村山郡中山町岡 柏倉九左衛門家北蔵 (約 30 名参加)
- ・河北郷土史研究会主催: 平成 20 年度「山形学」地域連携講座助成事業「河北の歴史と文化を探る」第 4 回講座講演「河北地方の地主制の発達と農民」, 2008 年 10 月 19 日, 於西村山郡河北町谷地

サハトベに花交流室 (約 50 名参加)

- ・山形県村山総合支庁主催：心が和む紅の里づくり 紅花振興フォーラム講演「最上紅花と地域振興 - 歴史に学ぶ -」, 2009年2月23日, 於村山総合支庁講堂 (103名参加)

[社会活動]

- ・日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (第2段審査委員, 審査第一部会史学小委員会委員・審査第二部会史学小委員会委員)
- ・学術雑誌『歴史学研究』(歴史学研究会編集・発行) 論文審査委員
- ・NPO法人「柏倉家文化村」顧問 (山形県東村山郡中山町柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家の調査研究, ひな祭りボランティア協力)
- ・柏倉九左衛門家初堂所蔵古文書の整理・目録作成・保存作業
- ・奥羽史料調査会世話人 (宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など)
- ・東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターより依頼の山形県西村山郡河北町旧家蔵調査に参加・協力 (蔵所蔵の文化財概要調査)
- ・山形近代史研究会事務局長 (会計及びバックナンバー・寄贈図書など引継事務)
- ・山形大学所蔵古文書に関する市民からの問い合わせへの対応
- ・地域より依頼された旧家の古文書等資料解説・調査・成果報告
- ・地域史研究者・市民から依頼された研究論文・地誌の作成執筆に関わる指導・助言

[その他]

- ・『山形新聞』2008年4月5日付紙面「滔々と最上川今昔 第4部いりどる 5香道 香り聞く高貴な遊び 柏倉家の文化財舟運がもたらす」取材協力
- ・『山形新聞』2008年11月10日付紙面「戦前の地域史学べる良書 - 工藤善兵衛日記 -」執筆
- ・『山形新聞』2009年2月14日付紙面「味読郷土の本 渡辺為夫著『やまがた地域史夜話』 庶民感覚で風刺も利かす」執筆

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

平成20年度は「研究活動推進のための特別軽減措置」の適用を受けた。但し、教育負担の免除は受けず、委員会活動を免除された(昨年度からの継続など一部の委員は担当)。研究では、西村山郡河北町谷地の榎家文書などをもとに、羽州村山郡新町村など谷地郷における地租改正期の農業構造と階層構造=対立関係、幕末維新期の社会運動について研究をおこない、小作人層・零細雑業層の経営や地主小作関係の詳細から豪農論・地域社会論を深めるあらたな見地を獲得した。地元の研究誌や講演で発表し、地域の方々に成果をご報告し、いろいろとご教示いただいた。また、本年度も科研費を受けて本学人文学部・地域教育文化学部の教員有志とともに地域史プロジェクトを組織した。その他、県内外で古文書調査・聞き取り調査を本年度も数多く実施した。教育では、指導院生2名の修士論文指導に力を注ぎ、学位を授与した。学部の日本経済史ゼミナールでは、本年度も東村山郡中山町岡の柏倉本家・分家の古文書調査を進め、秋には同家北蔵を会場に研究成果報告会を開催した。また、同家初堂で発見された大量の古文書資料について整理保存を委嘱され、目録どりの作業を開始し、夏・秋に同家に通い詰めた。社会活動としては、本年度も科研費や全国学術雑誌の審査委員、他大学・市民からの学術上の依頼にはできるだけ応えるように努めた。NPO法人「柏倉家文化村」の顧問として同法人企画のイベントに協力する活動を継続した。また、山形県村山総合支庁からの依頼に応じて紅花振興フォーラムに参加し、紅花生産者や県職員の方々と交流し、最上紅花による地域振興策について話し合った。地元紙の取材や原稿依頼にも可能な限り協力し、地域史や地域文化に関する発言と書評紹介をおこなった。

上野 芳昭

(2) 教育、地域連携等の活動

講義：「民法総則・物権総論」「契約法入門」「債権各論」

演習：「民法演習」}

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

共同不法行為に関する文献と判例を読み込んでいるが、現在、この問題についての学説は、混乱の極みにあり、新しい裁判例は、1 ヶ月に数件のペースで増えつつある。

諸学説を検討して類型を立て、様々な事案を、この類型に取り込む作業を進めているところである。

rei uindicatio の手続きを petitio hereditatis の手続きに変更する旨の Digesta の法文を探索している。

今さらながら時間が足りない。

ゼミの学生はよくやっている。来年の新 3 年生も優秀な学生がゼミに来るようである。

小笠原 奈菜

(1) 研究成果

< 科学研究費補助金 >

若手研究 (スタートアップ) 「当事者が望まなかった契約の適正化と情報提供義務」(研究代表者)

(2) 教育、地域連携等の活動

< 担当授業科目 >

- ・教養教育科目：判例を読もう (教養セミナー)、生活の中の民法
- ・専門教育科目：債権総論・担保物権、民法演習

< 地域連携等 >

山形弁護士会主催判例研究会

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

赴任初年度で授業準備などに忙殺されたこともあり、研究を成果として公表できなかった。

緒方 勇

(1) 研究成果

[著書・報告書]

- ・「学会ルポ 日本管理会計学会 2008 年度全国大会」, 『企業会計』, Vol.61, No.2, pp.142-143, 2009 年 2 月.

[学会報告]

- ・日本管理会計学会 2008 年度全国大会, 「R&D 費用のピヘイピアに関する実証的研究」, 甲南大学, 2008 年 8 月 31 日 (安酸健二氏との共同報告)

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当講義] 管理会計, 管理会計演習, 専門基礎演習, 経営分析入門, 中級簿記, 管理会計特別演習 (大学院)

[地域連携活動]

- ・山形仙台圏交流研究会にメンバーとして参加

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、現在、安酸氏との共同報告を論文にまとめている。また、無形資産の資産性に関する研究も行っている。教育活動については、本年度から本格的に学部・大学院の授業を行った。

貝山 道博

研究成果

従来からの研究テーマ「交通施設整備の費用・便益分析」については、有料の高速道路・無料の一般道路が存在し、ガソリン税が課せられている場合について、高速道路整備の便益の計測方法を明らかにした。その成果を12月に行われた東北大学大学院情報科学研究科定例研究会で発表した。平成20年度から着手した研究テーマ「高齢過疎地域における公共交通システムのあり方」については、既存文献を読み、関係自治体職員との議論、当該地域の実態調査を行った。その成果を踏まえ、科研費を申請した。その結果、平成21年度から3ヵ年の研究を認められた。

まちづくり研究所の中心市街地活性化問題研究に参加し、盛岡市、久慈市、山口市および豊後高田市の実態調査に加わった。

教育、地域連携等の活動

<教育>

前期は教養教育の「現代経済学の基礎」(2単位)、専門教育の「財政学」(2単位)・「財政学演習」(通年4単位)、大学院社会文化システム研究科の「財政学特論」(2単位)を担当した。

前期は教養教育の「教養セミナー」(2単位)、専門教育の「財政学」(2単位)・「財政学演習」(通年4単位)、大学院社会文化システム研究科の「財政学特別演習」(2単位)を担当した。さらに、後期から大学院生の研究指導を行った。

その他、放送大学山形学習センターで「財政の今日的課題」(2単位)を講義した。

<地域連携等>

山形・仙台圏交流研究会に参加した。

厚生労働省東北地方社会保険医療協議会山形部会に委員として参加した。

山形テレビ『提言の広場』の「デマンド交通システム～公共交通サービスを考える」に出演し、関係者と議論をした(6月)。

人文学部平成20年度公開講座『日本経済のゆくえ』の第2回講義「国・地方の財政状況と政策的課題 - 山形県を中心にして」を担当した(10月)。

東西北村山4市2町の職員を対象に、「国・地方の財政状況と自治体経営」について講話し、情報交換を行った(2月)。

平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

平成20年度に着任したので、ここはコメントなし。

金澤 真理

(1) 研究成果

[論文]

- ・「行為原理、侵害原理」法学セミナー 53巻6号(2008年5月)
- ・「行為の動機と犯罪の目的一嫌がらせの刑法的規制とその限界一」山形大学法政論叢 41・42号(2008年7月)

[判例評釈]

- ・「『職務に関し』の意義」『刑法判例百選 各論(第6版)』(2008年4月)
- ・「被告人が被害者に自動車を衝突させた上、刃物で刺し殺すとの計画を立てていたが、刃物で突き刺すことを断念した場合の殺人罪の実行の着手時期と中止未遂の成否」刑事法ジャーナル 12号(2008年7月)

[学会報告]

- ・「刑の執行猶予に関する覚書」龍谷大学矯正保護研究センター(2009年1月)

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当講義] 刑事法基礎、刑法、刑法、刑法演習

[出張講義] 山形県立鶴岡中央高校 (2008 年 8 月)

[審議会等] 山形県個人情報保護制度運営審議会委員, 山形県精神保険審査会委員, 山形市個人情報保護制度運営審議会委員, 山形市男女共同参画社会推進協議会委員長

(3) 研究, 教育活動に関するコメント

従来の未遂犯の構成要件の構造を解明すべく研究を進めると共に, 犯罪の主観的要素, 特に目的犯の目的について, 最近の刑事立法を素材として検討を加えた。講義にあたっては, 出席人数に応じて自習を促すよう工夫しており, 少人数のクラスでは, 一定の成果があげられた。演習では, 課外活動を積極的に行うことで, 学習したことと実務との接点を意識させるよう努めた。

金子 優子

(1) 研究成果

[論文]

「Postal Savings for National Development - The Experience of Japan and Future Perspective in a Globalized World」Public Organization Review, Volume 8, Number 3, Springer Netherlands, ISSN 1566-7170 (Print) 1573-7098 (Online) P233 - P252

「家計部門及び民間非営利団体部門の環境保全活動量の推計と貨幣評価」Occasional Papers No.34 (財) 統計研究会 P43-P67

「最新判例批評 宗教法人法 25 条 4 項に基づき宗教法人から所轄庁に提出された書類の管理事務が法定受託事務に該当するとされた事例」判例時報平成 20 年 7 月 1 日号 No.2002 判例時報社

「環境サテライト勘定の意義と今後の展望」山形大学法政論叢 第 41・42 合併号 P211-P222

[学会発表]

「公益法人に係る行政記録と統計調査の完全照合について その結果と課題」(2008 年度統計関連学会連合大会 2008 年 9 月 8 日, 慶應義塾大学・理工学部・矢上キャンパス)

[国際会議での発表]

「Measuring the Size of Citizens' Activities in the Environmental Conservation」(国際行政学会アンカラ会議, 2008 年 7 月)

「Policy Studies in Japan」(IPA International Conference Inter-disciplinary Approach in Policy Studies and Education, 韓国大田市, 2008 年 10 月)

「Privatization of Postal Services in Japan」(韓国行政学会 2008 年国際会議, 韓国ソウル市, 2008 年 10 月)

「Japan's Privatization Undertaking from the Procedural Perspective」(Forum on Public Management in East Asia, 中国広州市, 2008 年 12 月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当科目: 行政学, 公共政策論, 日本国憲法, 技術進歩と行政, 行政学演習・行政法演習, 総合講座 I (公共政策), 行政学特論 I・II, 行政学特別演習

外部での講演

神奈川県議会代表者シンポジウム 「地方議会の在り方-いま求められているもの-」 2008年7月

外部研修講師

山形市職員研修「行政法研修」講師 2008年9月

審議会委員

第29次地方制度調査会委員
山形県市町村合併推進審議会委員
東根市情報公開・個人情報審査会委員
村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員
山形市特別職報酬審議会委員

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、外部研究資金による公益法人に関する研究を進めた。また、新たな外部研究資金を得て日韓共同研究を始めることができた。

教育活動については、プレゼンテーションソフトを利用することにより分かりやすい講義となるように努めた。また、行政実務家を招請して行政の現場についての講義を行っていただき、大学教育と実社会との連携に努めた。

北川 忠明

(1) 研究成果

- 1) 「フランスにおける郷土圏」, 山形大学大学院『社会文化システム研究科紀要』, 第5号.
- 2) 「ヴォルテールと共和主義」, 山形大学『法政論叢』, 第43号.
- 3) 「フランス共和国モデルの現在」, 『思想』, 2009年4月.

(2) 教育, 地域連携等の活動

教育: 『政治理論』, 『政治理論演習』, 『地域公共政策論』(以上学部), 『現代政治入門』(教養教育), 『現代政治論特講』, 『現代政治論演』(大学院)

地域連携: 長井市経済再生戦略会議委員

山形県土地収容事業認定審議会委員

山形県明るい選挙推進協議会委員の他, 地域連携室長としての活動.

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、行政的仕事による時間的制約の中で、論文を3本公表できたことは研究の継続性の観点からしても一応満足できる。フランス共和国モデルの政治思想史的研究は今後も継続する。他方、教育面では目立った成果を挙げられなかったもので、テキスト選択も含め、改善努力をしたい。

國方 敬司

(1) 研究成果

「イギリス村落形成史の再検討」, 『山形大学紀要(社会科学)』第39巻2号, 2009年2月, pp.83-105.

(2) 教育, 地域連携等の活動

山形大学での授業: 西洋経済史, 環境と経済, 西洋経済史・環境と経済演習, 市場経済と環境(一

般教育), イギリス経済史特論 (大学院)
東北公益文科大学での授業: 環境経済学
山形短期大学: 暮らしと経済

審議会等

比較家族史学会理事
社会経済史学会評議員
三浦新七博士記念会評議員
山形新聞報道審査会委員
「子育てするなら山形県」推進協議会委員
山形県消費生活審議会委員
「やまがた ECO マネジメントシステム」外部評価委員
山形県食の安全推進会議委員
山形市清掃問題審議会委員
山形市中央卸売市場運営協議会委員

講演会等

- * 「家庭ごみ減量化の考え方と心構え」, 一般廃棄物の減量化と有料化のセミナー (大手門パルズ) 2008 年 6 月 25 日 (水)
- * 「県産牛肉を通して食の安全と安心の確保について考えてみよう」パネルディスカッション・コーディネーター, 「食の安全フォーラム」(遊学館ホール) 2008 年 7 月 17 日 (木)
- * 基調講演「山形県における消防広域化推進の取り組み その必要性和圏域設定の考え方」, 平成 20 年度第 5 回消防広域化セミナー (青森市男女共同参画プラザ) 2008 年 9 月 12 日 (金)
- * 「三浦新七 その人と軌跡」, 山形大学都市・地域学研究所公開講座 (山形大学人文学部) 2008 年 10 月 18 日 (土)
- * 「環境問題と日本経済」, 山形大学人文学部公開講座 (山形大学人文学部) 2008 年 10 月 31 日 (金)
- * 基調講演「子育て, みんながサポーター」, (河北町どんがホール) 2008 年 11 月 15 日 (土)

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

[口頭発表]

- ・「証券振替決済システムにおける権利の帰属と移転の理論」2008 年 7 月, 日本比較法研究所共同研究 G・金融取引の比較法的研究 (中央大学)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[平成 20 年度担当授業]

- ・学部専門科目: 商法 I, 商法 II, 商法演習 I, 法経政策学基礎演習

[地域連携活動]

- ・山形県消費生活審議会委員
- ・PFI 事業者選定審査委員会委員

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

証券振替決済システムにおける口座記録としての証券の帰属および移転につき, 比較法的な視点からの分析を踏まえた理論構築を試み, 口頭報告を行った。さらに証券決済と資金決済との異同を視野

に入れつつ、資金決済に関する問題点、とりわけ預金の帰属につき検討した。
また教育面では、学生自身が他人を説得できるように「考えて話す」「考えて書く」ということを通して、理論的な思考方法を身につけることを目標に、授業を行った。

小嶋 明美

(1) 研究成果

- ・「職権探知主義の規整 - 中国民事訴訟法を素材として - (1)」山形大学法政論叢 43号 1 - 34頁 (2008年8月)

(2) 教育、地域連携等の活動

[山形大学における担当科目]

- ・専門教育科目：民事訴訟法，民事訴訟法，民事訴訟法演習，法と裁判
- ・教養教育科目：現代社会と裁判

[他大学における講義]

- ・紛争処理法，国際取引法 (日本大学)
- ・中国民事訴訟法 (広島修道大学)
- ・経済法 (朝日大学)

[出前講義] 福島南高校 (2008年11月)

[地域連携] 山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

研究においては、我が国民事訴訟法改正後の訴訟運営のあり方について検討し、職権主義と当事者主義の交錯という視点から、日中民事訴訟の比較研究を行った。

教育においては、多様な大学、学部 (高校での出前講義も含め) で講義を行い、正しい知識、理論を受講生に合わせてわかりやすく講義する工夫をした。双方向の講義を心がけたが大人数の授業では難しく、試行錯誤しながら進めた。

是川 晴彦

(1) 研究成果

[論文]

- ・「山口市中心市街地の実態と活性化政策」、『山形大学紀要 (社会科学)』，第40巻第1号，pp79-95

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

- ・学部：ミクロ経済学，応用ミクロ経済学，公共経済学，基礎演習，社会科の教材研究B
- ・大学院：公共経済学特論，公共経済学特別演習

[地域貢献活動など]

- ・高校への出張講義 (楯岡高校)
- ・山形県指定管理者審査委員会の外部委員
- ・山形県知事選挙報道番組におけるコメント (YBCのテレビ番組)
- ・暫定税率に関するコメント (YBCのラジオ番組)
- ・山形仙台圏交流研究会における調査・報告

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

中心市街地活性化に関する研究では、平成19年度に引き続き、科研費 (研究代表者：基盤C) 関係の調査・研究を継続した。高松市、徳島市、岐阜市、盛岡市、山口市、豊後高田市などにおいて実態調査とヒアリングを行った。研究分担者の協力もあって、駅前と従来の中心市街地の同時開発や中

心市街地における地権者の意志決定に関する課題について研究成果を得ることができた。課税理論の研究では、平成 19 年度に引き続き、不完全競争企業における部分均衡分析を発展させる考察を行った。

教育に関しては、平成 19 年度と同様、講義時の配布プリントの更新を行った。平成 20 年度は専門科目として新たに「公共経済学」を担当した。伝統的な理論に加え、近年の研究を講義内容にどのように取り入れていくかを工夫した。大学院では、正指導教官として学生 1 名の修士論文作成を指導した。当該学生を実態調査に同行させたほか、この学生に修士論文の主内容を東北経済学会で報告させた。幸い、フロアからも興味深い内容であるとのコメントが得られた。修士課程の学生が学会報告を実現できた点において、大学院における指導の成果が得られたと考えている。

今野 健一

(1) 研究成果

- ・著書（共著）：『新版 体系憲法事典』[杉原泰雄編]（青林書院，2008.7） 教育を受ける権利の項目を執筆
- ・論文：『「憲法教育論」と憲法教育 - 最近の憲法学説の批判的検討』全国民主主義教育研究会編『民主主義教育 21 vol.2 - 立憲主義と法教育』（同時代社，2008.5）
- ・論文：「学校教育法の改正と教育目標法定の意義」『季刊教育法』157号（2008.6）
- ・学会報告：「教育目標法定の意義 - 教育基本法から学校教育法へ」[第 38 回日本教育法学会定期総会・全体会報告]（2008.6）

(2) 教育，地域連携等の活動

担当授業科目

- ・学部専門科目：憲法，教育法，憲法演習，法経政策学基礎演習，総合講座（法律）等
- ・教養教育科目：日本国憲法

地域連携活動

山形県立中央病院治験審査委員会委員・同倫理委員会委員，山形市情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員，出張講義（7月：楯岡高校，10月：八戸西高校），研究室訪問事業への協力（2009年2月：北村山高校）

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

研究活動に関しては、分担執筆していた『新版 体系憲法事典』がようやく刊行された。また、日本教育法学会の定期総会（於・広島修道大学）で全体会報告を行った。教育面では、初めて担当する「憲法」（ゼミスター）の準備で、前期は忙殺された。「総合講座」では、取りまとめ役を務めた。

澤田 裕治

(1) 研究成果

澤田の呼びかけにより、学内に澤田裕治、松本邦彦、丸山政己の3名による安達峰一郎研究会を組織し発足させ、研究会活動を開始した。同研究会の世話人として中心的な活動を果たした。

第1回研究会 2008年12月16日「研究会発足及び方向づけの協議」

第2回研究会 2009年1月28日 報告者：丸山政己「日本の国際法学における安達峰一郎の位置づけに関する覚書」

(2) 教育，地域連携等の活動

[山形大学における講義・演習等]

- ・教養教育科目：基礎から考える法学，基礎からの民法
- ・専門教育科目：法経政策学科基礎演習，西洋法制史，西洋法制史演習

・その他：自主ゼミ「ドイツ語で考える法律学」を開講

[講演会] 中島宏講師が企画した一橋大学大学院法学研究科教授阪口正二郎による「憲法を改正することの意味」講演会（人文学部と法学会の共催）について、その準備・運営を全面的にサポートし、同講演会を成功に導いた。

[山形県立保健医療大学における講義] 法学

[山形県立産業技術短期大学校における講義] 法学概論

[山形市立病院済生館高等看護学院における講義] 関係法規

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、私訴追に関する研究を継続する一方、不法行為法の比較法的研究により、厳格責任につきエルスペース・リード等の研究成果に学んだ。公表論文がなかったのは残念だが、『山形大学法政論叢』第41・42合併号＝高木紘一教授退職記念号に、法学会会長として献呈の辞を執筆し、また[講演]水林彪「日本における法概念の歴史」のテープ起こしと校正を行なった。

教育では、教養教育科目において、『対話 Dialogue』と題するミニコミ誌を毎回発行し、学生同士と教員の相互コミュニケーションを図り、講義内容を血肉化する努力を続けた。

下平 裕之

(1) 研究成果

[学会報告]

・「20世紀初頭におけるケンブリッジ学派の消費者協同組合論」（経済学史学会東北部会第29回例会，2008年4月26日，弘前大学）

[研究会報告]

・「マグレガーとロバートソンの産業統治論」（第20回経済思想研究会，2008年8月3日，東北工業大学）

[その他報告]

・「大学コンソーシアムやまがたにおける地域連携の取り組み」（第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム，2008年12月14日，名古屋大学）

(2) 教育・地域連携等の活動

・教育活動

山形大学における担当授業：

[学部] 経済思想，経済学史，経済学史演習，法経政策学科基礎演習，地域づくり特別演習（夏季集中），公務員講座（講義，小論文指導）

[教養教育] まちづくり入門，業界研究始め（大学コンソーシアムやまがた開講科目）

[大学院] イギリス経済学史特論，イギリス経済学史特別演習

非常勤：羽陽短期大学（経済学）

・地域連携活動

高校での出張講義・学部説明会：学部広報委員として複数担当

金山町公民館若手セミナーにおける講演会（2009年1月）

山形財務事務所財務モニター

村山地域グランドデザイン推進会議座長

大学コンソーシアムやまがた総務運営委員長（2008年4月～）

コンソーシアム学生交流合宿（2008年8月・小国町）でのワークショップ指導

全国大学コンソーシアム先進地調査（石川，大分，佐賀等）

山形大学まちづくり研究所・仙山圏交流研究会への参加

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については前年度の研究成果を学会で報告したほか、ケンブリッジ学派の経済学者による産業統治論に関する研究に着手し、研究会で報告した。これは 21 年度に共著として出版予定である。教育・地域連携活動については「大学コンソーシアムやまがた」の総務運営委員長に選出されたことが大きい。これにより組織運営等に時間が取られ研究活動に多少の影響が出たが、一方で先進事例を全国大学コンソーシアム研究フォーラムで発表するなど一定の成果を上げることができた。

真保 智行 (平成 20 年 10 月着任)

(1) 研究成果

[論文]

- ・真保智行「特許制度と企業行動：研究開発，技術移転，および企業間分業への影響」『知財研フォーラム』Vol.74, pp23-29, 2008 年 8 月
- ・真保智行「石油化学産業におけるライセンス契約と知識移転：吸収能力とライセンス契約の形態」『研究・技術・計画』Vol.23, No.1, pp57-68, 2008 年 6 月

[報告書]

- ・長岡貞男・真保智行「特許の実体審査と企業の出願行動」，財団法人知的財産研究所編『我が国における産業財産権等の出願動向等に関する調査報告書』，pp.58-83, 2009 年 3 月
- ・真保智行・長岡貞男「特許データによる合併の研究開発への影響の分析：三菱化学の合併のケース」，長岡貞男・和久井理子・青木玲子・伊藤隆史・真保智行『イノベーション競争と独禁政策』，公正取引委員会競争政策研究センター，pp.55-89, 2009 年 3 月

[学会報告]

- ・真保智行「技術導入と企業パフォーマンス：石油化学産業のケース」組織学会（神戸大学），2008 年 6 月

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・経済情報処理（神奈川大学経済学部，非常勤）

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

当年度は，特許制度の企業行動への影響，特許データを利用した共同研究開発，および技術導入の分析を行ってまいりました。今後は各種特許データにもとづいて，より詳細なデータベースを構築し，発明者単位の分析を可能にすることで，より深い研究を進めていきたいと思ひます。

鈴木 明宏

(1) 研究成果

- ・独裁者ゲームにおける労働，山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series 2008-E03, 2008.

(2) 教育，地域連携等の活動

【教育】

- ・担当科目：ゲーム理論，産業組織論，意思決定論演習，現代の経済理論（工学部）

【地域連携等】

- ・まちづくり研究会・仙山交流研究会への参加
- ・福島県立郡山東高等学校・岩手県立金ヶ崎高等学校への出張講義

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

今年度は前年度に引き続き科学研究費補助金により経済実験（山形大学・広島市立大学・京都産業

大学にて実施)を行っており、上記のDPはその成果の一部である。DPは英訳し海外雑誌へ投稿中である。また、出張講義においても近年の経済学の発展を体感してもらえよう、簡単な教育用実験を行った。研究・教育活動の詳細は自身のWebサイト(人文学部の教員一覧にリンクあり)に掲載している。

鈴木 均

(1) 研究成果

「世界金融危機下のEUの景気動向」(SGSIM研究会,八王子,2008年3月発表)

(2) 教育活動

授業担当:国際経済論,ヨーロッパ経済論,世界経済の読み方(教養経済学),国際経済論演習

(3) 地域貢献活動

雇用能力・促進機構の公益委員

(4) 当該年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし

砂田 洋志

(1) 研究成果

・「マルコフ・スイッチング・モデルのベイズ推定 - 山形県鉱工業生産指数への応用 -」,山形大学紀要(社会科学),第39巻第1号,2008,pp103-119.

(2) 教育,地域連携等の活動

担当授業

計量経済学,統計学,法経政策学基礎演習,専門基礎演習,専門演習,
金融論(東北大学会計大学院),統計学(東北芸術工科大学),経済統計論(福島大学)

地域貢献

山形仙台圏交流研究会へ参加している。同研究会において7月に「東北地方の中小都市におけるまちづくりと観光」について共同報告し,須賀川市を担当した。

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究では,山形県の景気について計量経済学の立場から引き続き研究を行った。また閾値自己回帰モデルの研究のために,リミットサイクルなどの非線形現象などについても理解を深めた。

中心市街地活性化の研究では,岐阜市と盛岡市へ調査に行き,「中心市街地活性化政策の理論的研究 - 地域資源の類型化と経済理論による考察 -」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として調査を行った。

教育関係では,講義ノートを配布するなどして,学生の理解を深めることに力を注いだ。また,専門演習では,2名の学生の卒業論文を指導した。

高倉 新喜

(1) 研究成果

・「イギリスにおける二重の危険の法理の動向 2003年刑事司法法(Criminal Justice Act 2003)の適用が争われた2つの謀殺(murder)事件をめぐる」『山形大学法政論叢』41・42合併号(2008年7月)53-83(逆)頁

(2) 教育,地域連携等の活動

・専門科目:刑事訴訟法

刑事法基礎

刑事訴訟法演習

公共政策特殊講義「地域社会論」(2 単位, 安田・松本と共同運営。各自が講義 1 回を担当した他, 非常勤講師の紹介, レポートの採点を分担した)

- ・教養科目：裁判員制度 (法学)
刑事手続における犯罪被害者の地位 (法学)
 - ・研究室訪問事業 (新庄北高校) への協力
 - ・地域連携：山形県介護保険審査会委員
- (3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント
- 研究面では, 最近大きな動きのあったイギリスの二重の危険の法理の動向をまとめたものを論文として発表した。
- 教養教育では, 裁判員制度の講義に加えて, 近年拡充されてきている犯罪被害者保護法制についての講義をしたが, どちらも多くの学生の履修があった。専門教育の刑事訴訟法演習では, 学生の関心が高い裁判員制度をテーマとして扱い, 山形刑務所見学を実施した。

高橋 和

(1) 研究成果

- ・論文「地域協力の変容と EU の近隣諸国政策——東欧の視角から——」多賀秀敏編『EU サブリージョンと東アジア共同体——地域ガバナンス間の国際連携モデル』2009 年 3 月, 39-48 ページ。
- ・口頭報告
「地域協力の行方」国際関係史研究会シンポジウム, 2009 年 3 月 15 日 (於 山形大学)

(2) 教育・地域連携等の活動

- ・教育
担当授業：(学部科目) 国際関係論, 国際公共政策, 地域の国際化, 国際関係論演習
卒論指導
(大学院科目) 国際関係論特論, 国際関係論特別演習
修士論文指導

- ・地域連携
出張講義：宮城学院高校
山形県労働委員会公益委員, 山形労働局最低賃金審議会公益委員,
山形県薬事審議会委員など

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では, 平成 20 年度は, 北東アジア学会研究大会を山形大学で開催し, チェコから研究者を招聘して, 国際シンポジウムを開催した。

教育では, ゼミの所属学生全員に卒業論文を書かせた。また修士論文の指導の過程で, 学会報告をさせ, 論文を学会誌に掲載することができた。(査読有り)

人文学部の FD 活動において, 愛媛大学にヒアリングに出かけ, また学部内で大規模授業への対応について意見交換会を開催した。

立松 潔

(1) 研究成果

論文：

「中心市街地再生とまちなか居住 山形市を中心に」(『山形県の社会経済・2008 年 年報第 21 号』山形県経済社会研究所発行, pp.43-56)

(2) 教育, 地域貢献等の活動

平成 20 年度の担当授業の紹介

教養教育科目

「生活の中の経済学」(経済学)前・後期

「Jリーグと地域社会」(教養セミナー)

他の教員との共同で担当する教養教育科目

「現代社会の諸問題」(教育・福祉) : 1 回担当

専門教育科目

「日本経済論」前・後期

「地域経済論」後期

「日本経済論演習」通年(卒論指導も含む)

オムニバス科目(他の教員と共同で担当)の専門教育科目

「公務員対策セミナー」運営事務局担当。講義, 集団討論演習, 論文演習担当(計 6 回)

「総合政策講座」(公共政策) : 2 回担当

「総合政策講座」(経済・経営) : 1 回担当

大学院

「日本産業構造分析特論」

「日本産業構造分析特別演習」

「特別研究」

「特別研究」

地域貢献活動(審議会委員, 講義担当等)

山形県職業能力開発審議会会長

山形県労働委員会公益委員会長代理

山形県建築審査会委員

地産地消の店認定基準検討会(山形市)座長

公開講座等

平成 20 年度男女共同参画県民企画事業「知ってナットク! 数字の読み方」講師(8月23日)

野村證券との連携公開講座(やさしく学ぼう お金と経済の話)「第3回私たちの暮らしと日本経済」担当(11月27日)

出張講義:

三沢高校(6月28日)「日本経済の直面する課題 デフレの克服と物価上昇対策」

寒河江高校(9月17日)「日本の構造改革と地域づくり」

(3) 当該年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 山形市の中心市街地再生に関する調査報告を『山形県の社会経済・2008年 年報第21号』に発表した。教育面では平成20年度より正式の授業科目となった人文学部共通科目の公務員対策セミナーを企画・運営責任者として担当し, 88名の受講生(うち履修登録39名)を集めることができた。

戸室 健作(平成20年11月着任)

(1) 研究成果

[論文]

・「請負労働者像の考察」『経営学研究論集(明治大学)』29号, 2008年9月, 21-40頁

(2) 教育, 地域連携などの活動

- ・社会政策論（拓殖大学非常勤講師）
- ・経営労務（立正大学非常勤講師）
- ・修士論文指導など（明治大学大学院経営学研究科教育補助講師）

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

請負労働者の労働社会の様相を論文として公表することができた。昨年の講義内容を精査し修正を行った。

中島 宏

(1) 研究成果

【学会報告】

- ・「フランスにおける輸血拒否と患者の権利」第 56 回宗教学会（2008 年 6 月 7 日，龍谷大学）
- ・「フランスにおける病院の非宗教性」憲法理論研究会夏季合宿研究会（2008 年 8 月 30 日～9 月 1 日，長野県松本市美ヶ原温泉）

【国際シンポジウムにおけるコメント】

- ・日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「東アジアにおける法の継受と創造 東アジア共通法の基盤形成に向けて」（2008 年 11 月 22～23 日，北京・中国人民大学，テーマ 3「東アジアに対するフランス憲法の影響」）

【書評】

- ・「小泉洋一著『政教分離の法』（法律文化社，2005 年）」国際人権 19 号 218～219 頁（2008 年 10 月）

(2) 教育，地域連携等の活動

【教育】

- ・専門科目：憲法 ， 憲法 ， 憲法演習 ， 法経政策学基礎演習
- ・教養科目：日本国憲法
- ・2008 年度人文学部・法学会主催講演会（阪口正二郎氏「憲法を改正することの意味」）の企画・運営

【地域連携】

- ・山形市個人情報保護制度運営審議会委員，天童市情報公開・個人情報保護審査会委員

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

赴任初年度であり，講義の準備に力を入れた。専門科目の講義では良い手応えを得たが，受講人数の多い教養科目（日本国憲法）では少なからず苦労した。研究面では，学会や国際シンポジウムにおいて研究発表・コメントをする機会に恵まれた。その成果は論文として公刊される予定である。

行方 久生

(1) 研究成果

【論文等】

「最近の地方財政『危機』の特徴と政府の地方財政対策 垂直的財政調整から水平的財政調整への交付税のシフト」（『自治と分権』08 年 4 月，P85～P101）

「現代地方分権論と受益者負担（上） 道路特定財源と目的税の動向を中心に」（『自治と分権』，08 年 7 月，P87～P100）

「現代地方分権論と受益者負担（中） 公債の目的財源化と公共事業のあり方を考える」（『自治と分権』，08 年 10 月，P85～P98）

On Japanese Local Government and Administrative Reform (東北 JICA 研修, 08 年 10 月)
「地方分権は『良いシナリオ』か?」(『地方自治職員研修』09 年 1 月, P38 ~ P41)
「岐路に立つ新自由主義と日本の進路」(『自治と分権』09 年 1 月, 渡辺治一橋大教授との対談,
P20 ~ P38)

【書評等】

東門美津子 沖縄市長へのインタビュー (『自治と分権』08 年 4 月, P4 ~ P26)
市川昭男 山形市長へのインタビュー (『自治と分権』09 年 1 月, P4 ~ P19)
竹内章郎 『新自由主義の嘘』(岩波書店), (『自治と分権』08 年 7 月, P101 ~ P110)
本山美彦 『金融権力 グローバル経済とリスク・ビジネス』(岩波新書), (『自治と分権』08 年
10 月, P99 ~ 108)
湯浅誠 『反貧困 「すべり台社会」からの脱却』(岩波新書), (『自治と分権』09 年 1 月,
P105 ~ P115)

(2) 教育, 地域連携等の活動

【教育活動】

地方財政論, 自治体論, 地方財政論演習 (学部)
地方自治論, 総合講座 分担 (教養教育)
地方財政特論 (大学院)
公務員対策セミナーなど分担

【地域連携活動等】

さくらんぼテレビ (ニュース解説, 最上地方市町村合併問題)
朝日新聞 (山形県知事選挙・財政問題, 知事公舎問題等)
Nikkei BP (公務員制度の解説)
地方財政, 労働経済, 地域経済問題等について, 各地の住民・団体の講演活動, 学習, 調査活動
への協力など年間 50 数回

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

激しい政治・経済の動きに翻弄され, 目先の変化をどうみるかという「当面」の関心事が中心になっ
てしまい, 落ち着いた研究活動に支障が生じた。ユニークな行政を行っている首長へのインタビュー
などを通じて, 自治体の動きを把握するというテーマに引き続き取り組んだ。また, 最近の研究テ
ーマである, 都道府県行財政の長期的分析, 都市と農村自治体の対比研究については基礎的なデータ構
築や分析は進めているものの, 研究成果として発表するには至らなかった。

西平 直史

(1) 研究成果

・西平: むだ時間システムとしてとらえたサプライチェーンについての一考察 - リードタイムが既知
の場合; 山形大学人文学部研究年報, 第 6 号, 157/162 (2009)

(2) 教育, 地域連携等の活動

・教育
学部 経営システム, 応用情報処理, 情報・システム論演習
教養 情報処理
大学院 経営システム特論
・地域連携等の活動
山形県村山総合支庁と共同で開催している「山形仙台圏交流研究会」にメンバーとして参加した。

蔵王温泉観光組合との連携事業である外国人旅行者統計の作成を担当した。

(3) 平成 19 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、従来から進めているサプライチェーンマネジメントにおけるむだ時間システムとしてのシステム表現を用いた解析に関する研究を進めて、その成果を公表した。

教育面では、経営システム、情報処理に関する講義を担当した。

野田 英雄

(1) 研究成果

[学術論文]

[1] Noda, H., "On International Technology Transfer through Licensing," *Information: An International Interdisciplinary Journal*, 11(3), pp.261-277, May 2008.

[2] 大隈慎吾・野田英雄 "The Environmental Kuznets Curve and Convergence of Sulfur Emissions in OECD Countries: Analysis Based on the Green Solow Model," 『地域学研究』, 第 38 巻第 1 号, pp.177-190, 2008 年 8 月.

[3] Noda, H. and K. Kyo, "Bayesian Analysis of Economic Growth in Taiwan and Mainland China via Dynamic Production Functions," Yamagata University FLSS Discussion Paper Series, No.2008-E04, October 2008.

[4] Kyo, K. and H. Noda, "Bayesian Analysis of the Dynamic Structure in China's Economic Growth," in M. S. Lauretto, C. A. B. Pereira, and J. M. Stern, eds., *Bayesian Inference and Maximum Entropy Methods in Science and Engineering*, American Institute of Physics, pp.309-316, December 2008.

[5] Noda, H. and K. Kyo, "An Empirical Study on the Japanese Prefectural Economies Using Bayesian Statistical Models," Yamagata University FLSS Discussion Paper Series, No.2009-E01, January 2009.

[6] Noda, H., "Patent Duration, Innovative Performance, and Technology Diffusion," *Information: An International Interdisciplinary Journal*, 12(1), pp.71-86, January 2009.

[学会発表]

[1] 野田英雄・姜興起 「構造変化を考慮した都道府県別生産関数の統計解析 ベイズ型統計モデルによるアプローチ」日本応用経済学会 2008 年度春季大会, 2008 年 6 月, 熊本学園大学.

[2] Kyo, K. and H. Noda, "Bayesian Analysis of the Dynamic Structure in China's Economic Growth," The 28th International Workshop on Bayesian Inference and Maximum Entropy Methods in Science and Engineering, July 2008, Salvetti Praia Hotel, Brazil.

[3] 姜興起・野田英雄 「日本の多地域生産関数の構築と地域経済の構造分析」2008 年度統計関連学会連合大会, 2008 年 9 月, 慶應義塾大学.

[4] 野田英雄 "Product Development and Technology Diffusion," 日本地域学会第 45 回年次大会, 2008 年 10 月, 公立はこだて未来大学.

[5] Kyo, K. and H. Noda, "Bayesian Estimation of the Dynamic Production Function for Taiwan and Mainland China," Joint Meeting of 4th World Conference of the IASC and 6th Conference of the Asian Regional Section of the IASC on Computational Statistics & Data Analysis, December 2008, Pacific Convention Plaza Yokohama, Japan.

(2) 教育、地域連携等の活動

【担当講義】マクロ経済学, 応用マクロ経済学, マクロ経済学演習, 総合講座, 経済モデル解析入門, 経済モデル解析入門

- 【地域連携活動】山形県経済動向研究会メンバー，山形・仙台圏交流研究会メンバー
(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究については、ベイズモデリングによる経済成長の要因分析法の開発を中心に、東アジアの国・地域への応用を試みた。その成果を国内学会、国際会議等で発表した。いくつかの改善点が見つかったので、それらは今後の課題としたい。

教育については、例年と同様に、受講者が明快に理解できるよう板書に際して丁寧な記述を心がけた。また、講義時間内に十分な説明ができない場合には、詳細なレクチャーノートを配布して補った。

藤田 稔

- (1) 研究成果

「排除確保措置を命じた審決が公取委の裁量の範囲内とされた事例」速報判例解説第 2 号 301-304 頁 (2008 年 4 月)

「委託販売に対する独占禁止法による規制 - 再論」山形大学法政論叢第 41・42 合併号 1-15 頁 (2008 年 7 月)

「研究ノート バンドリングレポートに対する競争政策」山形大学紀要 (社会科学) 第 39 巻 1 号 121-133 頁 (2008 年 7 月)

「種苗価格カルテル審決取消請求事件」公正取引第 694 号 22-27 頁 (2008 年 8 月)

「抽象的な内容の価格カルテルの合意を違反行為と認定した審決が支持された事例」速報判例解説第 3 号 273-276 頁 (2008 年 10 月)

- (2) 教育，地域連携等の活動

「経済法 1」「経済法 2」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権 (法学)」を担当。
(その他、東北学院大学で、非常勤講師を務めた。)

山形県入札監視委員会委員長として、山形県の土木・建設工事の入札の適正化に努めた。

山形労働局で、個別労働紛争調整委員として、労働紛争の解決のあっせんを行った。

独占禁止政策協力委員として、独占禁止政策のあり方について、公正取引委員会に対して、意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として、弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として、学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

- (3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

2009 年 10 月開催の日本経済法学会大会のシンポジウムで報告者を務めることになったので、準備を進めた。「経済法 2」の内容を新カリキュラムに合わせた内容で開講した。

伏見 和史

- (1) 研究成果：論文「企業活動とコンプライアンス」平成 21 年 2 月執筆
(山形大学法政論叢 44・45 合併号)

- (2) 教育，地域連携等の活動

人文学部進路指導委員会副委員長

全学就職委員会委員

山形県知的財産権管理審査委員会委員長

NPO 法人プロネット会員

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

新任教員として 20 年 4 月から山形大学人文学部に勤務しました。

国際取引法・企業法務論を担当しています。

総合商社での実務経験を軸に学生に魅力ある授業づくりや進路指導をします。

洪 慈乙

(1) 研究成果

- ・「企業会計と財務報告 - IASB & FASB の共同概念フレームワークプロジェクトにおける公開草案 (ED [2008]) の考察を中心として - 」, 『山形大学紀要』(社会科学) 第 39 巻第 2 号, 平成 21 年 2 月, pp. 107-123.

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

学 部・専門科目担当授業: 会計学, 財務会計, 会計学演習,

・教養教育: 現代社会と企業会計

大学院・比較会計学特論, 比較会計学特別演習, 企業経営特別研究, および修士論文指導

松本 邦彦

(1) 研究成果

A. 論文

- ・「山形県内市町村の「国際化・国際交流・多文化共生事業調査: この十余年をふりかえって」『法政論叢』41・42 合併号

B. 学会発表など

- ・9 月 28 日・北東アジア学会大会 (於: 山形大学) にて, 発表「東北の地方政府と国際化の現段階: 山形を中心に」。

(2) 教育, 地域連携等の活動

A. 講義

大学院

- ・国際政治特論 (2 単位 / 前期)

学部

- ・日本外交論演習 (4 単位 / 通年)
- ・日本外交論前期 (2 単位 / 前期)
- ・日本外交論後期 (2 単位 / 後期)
- ・日本政治論 (2 単位 / 後期)
- ・基礎演習 (2 単位 / 後期)
- ・総合講座 1 (公共政策) (2 単位 / 前期。コーディネーターは星野修先生。松本は冒頭のガイダンスの回と, 講義を 1 回「市民が担う公共政策」担当)
- ・地域づくり特別演習 (二) (2 単位 / 前期。人間文化学科の山崎彰先生と共同運営)
- ・公務員対策セミナー (2 単位 / 前期。コーディネーターは立松潔先生。松本は論作文演習を担当)
- ・公共政策特殊講義「地域社会論」(2 単位, コーディネーターは安田均先生。松本は講義 1 回を担当した他, 講師紹介, レポートの採点を分担した)

教養科目

- ・民族と政治 (政治学) (2 単位 / 前期)

- ・現代社会の諸問題 (総合) (2 単位 / 前期。コーディネーターは地域教育文化学部的那須稔雄先生。松本は「情報操作」の講義を 1 回担当)

B. 地域連携等

- ・特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭のライブラリーを研究資源とした調査研究に、人文学部からプロジェクト研究として補助をいただく (人間文化学科の山崎彰先生と共同研究。成果としての映画ガイドブックの第一弾は 2009 年 10 月発刊。)
- ・山形仙台圏交流研究会 (コーディネーター：立松潔先生) に参加。
- ・山辺町出身の外交官・国際法学者の安達峰一郎 (1869 - 1934) の研究プロジェクトを 12 月から開始 (澤田裕治, 丸山政己両先生と共同で)。
- ・8 月 2 日の山形大学オープンキャンパスにて、模擬講義「多文化共生ニッポン」は可能か? を開講。

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

他の先生方との共同で進ませていただいた活動が多かった年度です。

山形県内市町村の外国系住民向け施策や多文化共生施策についての調査報告がようやく一段落しましたので、今後は論壇史上での「多文化共生論」動向の分析が課題です。また、「日本外交史」を教える中で生じてきた戦前外交の論点についても、「安達峰一郎」を焦点に調査研究を進めます。

丸山 政己 (平成 20 年 12 月着任)

1) 研究成果

[論文]

- ・「国連安全保障理事会による国際テロリズムへの対応 狙い撃ち制裁をめぐる法的問題に関する一考察」『国連研究』第 9 号 (2008 年) 133-156 頁。

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・平成 20 年 12 月着任のため, 該当せず。

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・着任後は, 博士論文の一部を加筆修正する作業を行い, 山形大学紀要 (社会科学編) へ投稿した。また, 澤田教授, 松本准教授とともに安達峰一郎研究を開始した。教育面においては, 来年度以降担当予定の国際法, 国際人権法について授業準備を行った。国際法 (4 単位) が前期ゼミスターであったことを考えると, この時期に十分な準備ができたことは幸いであった。

安田 均

(1) 研究成果

A. 学会・研究会報告

- ・「平均的労働と能力主義的労働」SGCIME 研究合宿 (08.08.08, 八王子セミナーハウス)
- ・「能力主義的労働とその理論的意義」第 34 回仙台経済研究会 (08.08.23, 東北大学経済学部)
- ・「能力主義的労働の理論的可能性」経済理論学会第 56 回大会 (08.10.25, 九州大学経済学部)

B. 著書・論文

- ・「能力主義的労働の理論的可能性」経済理論学会第 56 回大会予稿集 (08.10.22)

(2) 教育, 地域連携等の活動

A. 講義

経済原論 (4 単位), 市場と組織 (2 単位), 教養「教養セミナー (格差を考える)」(2 単位), 「市

場経済」(2 単位)、公共政策特殊講義「地域社会論」(2 単位、松本・高倉と共同運営。各自が講義 1 回を担当した他、非常勤講師の紹介、レポートの採点を分担した)

公務員講座(春休み、講義 1 コマ、論作文 1 コマ)、学部共通科目「キャリア・ガイダンス」で 1 コマ担当。

B. ゼミ

経済原論演習(4 単位)

C. 合同ゼミへの参加

・東北学院大、宮城学院女子大との「三大学合同ゼミ」

「人はなぜブランドに惹かれるのか?」(7 月 12 日、東北学院大学)、「サブプライムローンの破綻と金融危機」(11 月 29 日、山形大学人文学部)

D. 地域連携

・解説記事「経済指標と解説」(連合山形「春季生活闘争方針」参考資料の H、2009 年 2 月)

・人文学部公開講座『日本経済のゆくえ』において「日系中国工場の日本的生産システム」(10 月 17 日)

・人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」に毎月参加。

当該年度のテーマ「外国人旅行者の誘致」に関連して別府・湯布院の視察調査(12 月 23 日-26 日)に参加。別府市役所観光街づくり課、別府外国人観光案内所、湯布院市役所商工観光課、立命館アジア太平洋大学等にヒアリング。山形市役所商工観光部観光物産課にヒアリング調査(2009 年 3 月 5 日)。

(3)平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

一昨年度よりすべての講義科目においてパワーポイントを用いて講述した後、その配付資料およびまとめプリントによって復習するというスタイルに移行した。学生からはわかりやすいとの評価を得ているので、今後も改良を重ねつつ続けたい。教養科目でも前期「教養セミナー」では一昨年度よりテーマとテキストを替えたところ、わかりやすいとの評価を得た。後期教養科目はより入門的な内容に変えた。テーマとするタイトルを「賃金の経済学」から「市場経済」に変え、最初の 3、4 回のみ資本主義経済の基本的な仕組みを解説し、残りは市場競争の軌轢を修復するセーフティ・ネット(年金、医療保険、雇用保険)の仕組みと現状の紹介に当てることにした。その際、講述と新聞記事読み取りを交互に行ない、現在、セーフティネットから漏れている人々が増え、格差問題、貧困問題が浮上している点に注意を喚起した。専門科目、教養科目のすべてにおいてオンライン上の修学支援システム Blackboard を用いた。主な利用形態は講義資料のアップロード、オンラインテスト、成績の逐次通知(毎回のオンラインテスト得点、期末試験の成績、単位評価)である。オンラインテストの利用に伴い、単位評価における配点を、講義テーマ毎の、択一式復習テスト 5-6 割と論述式の期末試験 4-5 割に変えた。つまり、専門知識を踏まえた論述式答案の作成に対して基本的な知識の習得の比重を上げ、日常の学習を重視するようにした。Blackboard による成績の逐次通知は好評なので今後も続けたい。

昨年度より年 2 回開催となった合同ゼミは同じ経済学でも専攻や関心の異なる学生と交流する貴重な機会なので今後とも参加したい。特に主催校となった場合には、専攻の異なる学生が議論に参加しやすいようなテーマの解説や論点設定はどのようなものか、ゼミ生が自分たちの関心を検討し直す良い機会でもある。

学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆、あるいは共同調査への参加は研究の間口を広げてくれるので、時間の許す限り引受けたい。

山口 昌樹

(1) 研究成果

論文

- ・ "Trade Credit of Chinese Corporations: A Comparative Analysis" 山形大学紀要 (社会科学) 第39巻第2号, 135 - 153頁

学会発表

- ・ アジア政経学会 2008年度東日本大会, 東京外語大学, 2008年5月24日
「中国の企業間信用 - 国有企業と非国有企業との比較分析」

(2) 教育, 地域貢献等の活動

教育

- ・ 担当授業: やさしい経済学 (教養セミナー), 金融論, 国際金融論, 証券経済論, 国際金融論演習, 国際金融論特論 I, 国際金融論特別演習
- ・ 証券ゼミナール大会への参加 (2008年12月)
- ・ 「キャリア形成論」の講師: グローバル競争を生きる (2008年12月)

地域貢献

- ・ 山形テレビ/YTS ゴジダスでのコメント出演: 荘内銀行と北都銀行との経営統合 (2008年5月)
- ・ 山形放送/YBC NEWS リアルタイムでのコメント出演: 荘内銀行と北都銀行との経営統合 (2008年5月)
- ・ コミュニティしんぶんでのインタビュー記事: 荘内銀行と北都銀行との経営統合 (2008年5月)
- ・ 人文学部公開講座「日本経済のゆくえ」第4回の講師: グローバルマネーと日本経済 (2008年10月)
- ・ 日中友好協会/勉強会での講師: 日本と中国との経済関係 (2008年11月)
- ・ NHK/やまがたニュースアイでのコメント出演: 地方銀行の中間決算について (2008年11月)
- ・ 出前講義/楯岡高校 (2009年2月)

(3) 平成20年度の研究・教育活動に関するコメント

教務を担当した年であったがつつがなく終えることができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。